

科目名	犬学・猫学			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係を知る。 ☑ 猫本来の能力について理解する。							
授業の一般目標	犬・猫の社会性・適応を学ぶことによって、動物に対しての人としての社会性も身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新犬種図鑑、イラストでみる犬学、猫の教科書							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係性等の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬学・猫学の基本的な知識を身に付け、顧客等に的確な説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬学・猫学の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な犬学・猫学の知識を修得し、実習授業へ繋げていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	授業開始について スタンダードとドッグ・ショー	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ケネル・クラブ、犬種用途、血統書について					最新犬種図鑑	
第2回	グループ制	JKC第1～第10グループについて、犬種標準とは					最新犬種図鑑	
第3回	イヌについて 家畜化の起源と歴史	イヌ学の重要性、犬種の多様な品種、進化について					イラストでみる犬学	
第4回	イヌの起源 野生のイヌ科動物の分類と分布	オオカミからイヌへ、世界の野生のイヌ科動物について					イラストでみる犬学	
第5回	食肉目としての特徴 ヒトとのかかわり	イヌ科とネコ科の違い 犬種の歴史について					イラストでみる犬学	
第6回	犬の習性・生態について	イヌ科動物の特性について					イラストでみる犬学	
第7回	形態の馴化現象	イヌの改良・新しい品種について					イラストでみる犬学	
第8回	ネコについて	ネコ学の重要性、猫種の多様な品種、進化について					猫の教科書P82～101	
第9回	ネコの起源 野生のネコ科動物の分類と分布	世界の野生のネコ科動物について					猫の教科書P82～101	
第10回	食肉目としての特徴 ヒトとのかかわり	ネコ科動物の特性 ペット化の歩み、ヒトに与える心理的影響					猫の教科書P82～101	
第11回	ネコの習性・生態について	ネコ科動物の特性について					猫の教科書P82～101	
第12回	形態の馴化現象 ネコのグルーミング方法	ネコの改良・新しい品種について ネコのお手入れ方法について					猫の教科書P82～101	
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習					試験範囲説明	
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験					単位認定試験	
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説					試験解説	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与 / 山極 夏希			実務経験紹介				

科目名	犬種・猫種学Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬・猫種の各グループ別、原産国、歴史、サイズなどを覚える。(JKC登録数上位、人気犬種を対象) 犬種・猫種による習性や特徴を覚える。							
授業の一般目標	犬・猫のスタンダードな知識を習得し、適切なアドバイスができるようになり、必要に応じて技術へ繋げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新犬種図鑑、猫の教科書							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種・猫種の沿革・特徴・性格・被毛・毛色・体部特徴・サイズ等の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各犬種・猫種の基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬種・猫種の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	スタンダード(犬・猫種標準書)を理解しながら、実習(技術)へ繋げることができる。							
授業計画(全体)								
基本的な犬学・猫学の知識を修得し、実習授業へ繋げていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 犬種 第1グループ	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 シープドッグ&キヤトルドッグ(スイス・キヤトル・ドッグを除く) ボーダー・コリー、コリー(ラフ)、ジャーマン・シェパード・ドッグ、 シェットランドシープドッグ、ウェルッシュコーギー(ペンブローク)				最新犬種図鑑		
第2回	犬種 第2グループ	ピンシャー&シュナウザー、モロシアン犬種 スイス・マウンテン・ドッグ&スイス・キヤトル・ドッグ、関連犬種 バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ボクサー、ブルドッグ、ドーベルマン				最新犬種図鑑		
第3回	犬種 第2グループ	グレート・デーン、グレート・ピレニーズ、ミニチュア・ピンシャー、 セントバーナード、ロットワイラー				最新犬種図鑑		
第4回	犬種 第3・4グループ	テリア エアデールテリア、ジャクラッセルテリア、ミニチュアブルテリア ダックスフンド ダックスフンド(カニンヘン・ミニチュア・スタンダード)				最新犬種図鑑		
第5回	犬種 第5グループ	スピッツ&プリミティブ・タイプ 秋田、アメリカン・アキタ、チャウ・チャウ、日本スピッツ 柴、シベリアンハスキー				最新犬種図鑑		
第6回	犬種 第6グループ・第7グループ	セントハウンド&関連犬種 バセット・ハウンド、ビーグル、ダルメシアン ポインティング・ドッグ アイリッシュセター、ワイマラナー				最新犬種図鑑		
第7回	犬種 第8グループ	レトリバー、フラッシング・ドッグ、ウオーター・ドッグ フラット・コート・レトリバー ゴールデンレトリバー、ラブラドル・レトリバー				最新犬種図鑑		
第8回	犬種 第9グループ	トイ&コンパニオン・ドッグ チワワ、ポストーンテリア、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、 狝、フレンチ・ブルドッグ、				最新犬種図鑑		
第9回	犬種 第10グループ	サイト・ハウンド アフガン・ハウンド、ボルゾイ、イタリアングレー・ハウンド、サルキー、ウイペット				最新犬種図鑑		
第10回	猫種 ①	アビシニアン、アメリカン・カール、アメリカン・ショートヘア、 ジャパニーズ・ボブテイル、シャム				猫の教科書		
第11回	猫種 ②	シンガプーラ、スコティッシュ・フォールド、ソマリ、 ノルウェー・ジャングル・フォレスト・キャット、ヒマヤラン、				猫の教科書		
第12回	猫種 ③	ベルシャ、ベンガル、マンチカン、メインクーン、ロシアンブルー、ラグドール				猫の教科書		
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	小動物概論 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬・猫以外での動物の生態を学ぶことにより、エキゾチックアニマルと呼ばれる分野の知識を覚える。 幅広い動物の生態を学ぶことで、動物のスペシャリストになる。							
授業の一般目標	愛玩動物飼養管理士の合格レベルの知識を覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬種・猫種以外のペットショップで扱われている小動物・鳥類・爬虫類・両生類等についての特徴・性格・被毛・毛色・体部特徴・サイズ・雌雄判別・飼育方法等の概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている小動物についての基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている小動物の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、ショップで扱われているメジャーな小動物について、正しい飼養管理・適正な環境作りができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 生物の世界 動物の世界	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 生物の分類 種の概念						
第2回	動物の分類	分類階級、属、学名 種の下の分類単位						
第3回	無脊椎動物の分類	節足、棘皮、軟体、刺胞、動物など						
第4回	昆虫の世界	不完全変態 完全変態						
第5回	動物の分布	旧北区～東洋区 エチオピア区、新北区、新熱帯区、オーストラリア区						
第6回	哺乳類(1)	単孔類、有袋類 有袋類～霊長目 牛海目、被甲目、有毛目 霊長目						
第7回	哺乳類(2)	ウサギ目、齧歯目① 齧歯目② トガリネズミ目						
第8回	哺乳類・鳥類	鯨偶蹄目① 鯨偶蹄目②、有鱗目 肉食目①ネコ科 肉食目②、イタチ科、クマ科 肉食目③、齧脚類 奇蹄目、翼手目						
第9回	鳥類(1)	鳥類の概要 日本の野鳥、走鳥類 キジ目、カモ目						
第10回	鳥類(2)	ハト目、コウノトリ目、ペリカン目、ミズナギトリ目 インコ目 スズメ目						
第11回	爬虫類	概要 カメ目・有鱗目 ワニ目						
第12回	両生類・魚	概要						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	田邊 真吾			実務経験紹介				

科目名	水生生物 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。 癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類の分類・種類・飼養方法・水質管理を覚える。 ・水生生物特有の病気についてを覚える。 ・日本原産の観賞魚と海外原産の観賞魚の歴史についてを覚える。 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基本的な魚類についての分類・特徴・雌雄判別・飼養管理等の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている人気魚類についての基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている人気魚類の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、ショップで扱われているメジャーな魚類について、正しい飼養管理・適正な環境作りができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	自己紹介・授業開始について アクアリウム	自己紹介、授業の必要性。概要・目的・目標についての説明・進め方 ペットとアクアリウム						
第2回	アクアリウムの語源	歴史・養魚から観賞魚へ 水槽飼育と自然とのサイクルについて						
第3回	魚の活動	生息環境と水 水合わせについて						
第4回	飼育方法、水槽について	水槽のサイクルとは、硬度と水温 飼育器具について 水槽・保温器具・照明器具・底床について						
第5回	観賞魚と食用魚	魚の外観と特徴・名称 体長と体高 観賞魚と食用魚の違い						
第6回	魚の臓器とその働き	皮膚と鱗 エラ 内臓器について						
第7回	魚の感覚器	色・形・距離・味覚・臭覚・振動・水流・水圧						
第8回	金魚について	金魚の種類と品種改良 飼育の歴史、日本での生産地						
第9回	錦鯉について	錦鯉の品種改良と歴史、選別と越冬 色揚げ・スビルリナ・鱗の優勢						
第10回	熱帯魚について(1) 魚の導入	コイの仲間 / 特徴・食性・繁殖・分布 ナマズとドジョウの仲間 / 特徴・食性・繁殖・分布 魚の導入、水合わせについて						
第11回	熱帯魚について(2)	カラシ目について ピラニア・テトラ・カラシン メダカの仲間 卵胎生魚性転換						
第12回	熱帯魚について(3)	シクリッドの仲間について 繁殖・分布・特徴 アナバス・汽水魚・古代魚について 戦魚・肺魚・乾眠						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点20%、演習点10点、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○		◎		10	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

科目名	解剖学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬・猫を中心とした動物の体の仕組みを勉強し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生態毎の違いを覚える。 犬・猫を中心とした動物の体の構造、骨格筋系、呼吸器系、消化器系、循環器系、内分泌系、神経及び感覚器系の機能を理解し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生体毎の違いを覚える。 動物の体の仕組みを学ぶことで、飼育方法や病気などの他の分野の基礎を確実に答える。							
授業の一般目標	・愛玩動物飼養管理士の合格レベル、知識を覚える。 ・2年次の各コースの基礎となることを覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	愛玩動物飼養管理士教本							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬・猫の基本的な身体構造の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬・猫が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本生理学を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な解剖学の知識を修得し、犬・猫の体のつくりを把握し、実習授業へ繋げ活用できる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 体のしくみ	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 体の成り立ち						
第2回	外皮系、骨格・筋肉	体を包むもの、体を支え動かす						
第3回	消化器系	栄養をとりにいれる・消化液						
第4回	消化器系	食べ物の通り道・吸収された栄養分の使われ方						
第5回	呼吸器系	酸素を取り入れる・空気を体に運び込む						
第6回	心血管系	血液中を流れるもの、血液を送り出す						
第7回	リンパ組織	リンパ管						
第8回	腎臓・肝臓	老廃物の排出・人体の化学工場						
第9回	感覚器	視覚・聴覚・味覚・嗅覚						
第10回	神経系	神経の働き、中枢神経・末梢神経						
第11回	内分泌系	ホルモンの働き						
第12回	生殖器系	こどもを産み育てる						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	林 弘之			実務経験紹介				

科目名	公衆衛生		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。 衛生上の危害や発生を防止する分野の基礎を覚える。							
授業の一般目標	愛玩動物飼養管理士の合格レベルの知識を覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンパニオンアニマルの新・健康管理学							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬・猫を主体とした動物に関する感染症や予防法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬・猫が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本的な公衆衛生についてを把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な公衆衛生学の知識を修得し、実習授業へ繋げていき病気の発症予防・衛生管理を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 公衆衛生概論	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 公衆衛生とは						
第2回	人獣共通感染症(1)	狂犬病、インフルエンザ、猫ひっかき病、外傷性パツレラ症						
第3回	人獣共通感染症(2)	破傷風、トキソプラズマ症、レプトスピラ症、サルモネラ症						
第4回	人獣共通感染症(3)	オウム病、腸管出血性大腸菌感染症、カンピロバクター腸炎、ブルセラ症						
第5回	人獣共通感染症(4)	ヘリコバクター・ピロリ感染症、幼虫移行症、アニサキス症、エキノコックス症						
第6回	人獣共通感染症(5)	クリプトスポリジウム症、マダニの媒介するズーノーシス、 サルから感染するズーノーシス						
第7回	人獣共通感染症(6)	ウサギから感染するズーノーシス、小型ゲッケン類から感染するズーノーシス						
第8回	滅菌・消毒(1)	院内感染の危険性について						
第9回	滅菌・消毒(2)	滅菌方法について、消毒薬の種類						
第10回	動物防疫学(1)	動物の輸出入とは						
第11回	動物防疫学(2)	動物検疫の目的と方法について						
第12回	動物防疫学(3)	集団感染を防ぐ目的と方法について						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	木村 明夫			実務経験紹介				

科目名	動物関連法規			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。 仕事をする上での法律を覚える。							
授業の一般目標	愛玩動物飼養管理士 2級 の合格レベルの知識を覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	愛玩動物飼養管理士教本							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物の愛護及び管理に関する法律についての概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬を主体とした動物を健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	動物関連法規学を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	動物関連法規に基づき、正しい飼養環境作り、適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、愛玩動物飼養管理士 2級 資格を取得し、ペット業界で活用する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	授業開始について 法律とは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 法律の目的・法令体系について等						
第2回	動物愛護管理法(1)	動物愛護管理法の概要・基準						
第3回	動物愛護管理法(2)	動物取扱業①						
第4回	動物愛護管理法(3)	動物取扱業②						
第5回	動物愛護管理法(4)	虐待等と罰則、特定動物について						
第6回	動物愛護管理法(5)	動物愛護週間、動物愛護推進員等について						
第7回	狂犬病予防法	狂犬病予防法について						
第8回	身体障害者補助犬法	補助犬の種類と国民の協力						
第9回	ペットフード法、鳥獣保護法	ペットフード法の内容、鳥獣保護法概要						
第10回	外来生物法、ワシントン条約	外来生物の種類、外来生物の取扱い、種の保存						
第11回	その他の関連法規(1)	獣医師法、獣医療法、麻薬取締法、薬機法						
第12回	その他の関連法規(2)	個人情報保護法、労働三法						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習					試験範囲説明	
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験					単位認定試験	
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説					試験解説	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介				

科目名	グルーミング基礎学		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	通年		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	グルーミングの必要性と目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。 ビジネスとして仕事をしていくうえで、グルーマーとしてお客様に満足していただける技術や心構えを身につける。 また、お客さまから信頼されるトリマーの知識を覚える。							
授業の一般目標	1. グルーマー・トリマーとしての技術と知識を習得し、心得を熟知する 2. グルーミングの必要性、目的、効果を覚える 3. 犬の取り扱いを覚える							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 犬・猫の基本的な手入れ方法について説明ができる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 犬・猫が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に正しいグルーミング方法・道具の使用方法等の説明ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 犬・猫の正しい取り扱い、美容用具の取扱いができ、美容(グルーミング)専門分野へ繋げていくことができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 基本的な手入れ方法を身に付け、人と共存する上で正しく生体を取り扱うことができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点 全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級(トリマーコース)、3級(トレーナー・アドバイザーコース)資格の取得							
授業計画(全体)	グルーミングに必要な基本的知識を修得し、正しく用具が取り扱え、犬・猫の取扱いがスムーズにできるようになると、その個体が健康的な生活できる。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	授業開始について 道具の説明(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 道具の説明、取り扱い<スリッカー・ブラシ、ピン・ブラシ、獣毛ブラシ、ラバー・ブラシ、 コム>			Dog G P W B P40~45 グルーミング P32~34 ブラシ類、コム			
第2回	ブラッシング・コーミングの演習 リボン作りの説明、材料等について 道具の説明(2)	シート・ウィッグを使用してスリッカー・ブラシ、コムの練習、リボン付けの練習 道具の説明、取り扱い<爪切り、鉗子> カンシを綿棒代用の演習			Dog G P W B P19~20 シートウィッグ、ブラシ類、コム、 ラッピング用品、爪切り、 鉗子、綿花			
第3回	シザーの種類と構造 道具の説明(3)	はさみの保定方法(持ち方の練習)、ハサミの各部の名称、構造、種類 道具の説明、取り扱い<はさみ類>			Dog G P W B P30~35 P47~50、52 グルーミング P36~39 ミニハサミ			
第4回	道具の説明(4) リボン作り	道具の説明、取り扱い<クリッパー> クリッパーの作動確認、分解掃除方法演習 手作りリボンの制作方法を覚え、作れるようになる			Dog G P W B P36~38、46、 53~54 グルーミング P42 クリッパー本体セット、リボン作成用			
第5回	各部位の構造と手入れ	耳、爪、肛門囊、目、口腔内の手入れについて			Dog G P W B P18~23			
第6回	道具の説明(5)	その他に道具の説明、取り扱い<ナイフ類、トリミングテーブル、ドライヤー等、について			Dog G P W B P51 グルーミング P40~41			
第7回	グルーミングにおける衛生管理(1)	感染症とその予防 消毒薬①			Dog G P W B P274~279			
第8回	グルーミングにおける衛生管理(2)	消毒薬②			Dog G P W B P280~283			
第9回	グルーミングにおける衛生管理(3)	グルーミングで注意すべき感染症			Dog G P W B P284~286			
第10回	ショップにおける基礎知識と受付、対応について(1)	ペット・ショップとは 仕事の基本とマナー			Dog G P W B P296~301			
第11回	ショップにおける基礎知識と受付、対応について(2) こんな時どうする?	ペット動物の販売・トリミング・ペット動物の預かり 事故を未然に防ぐために、トリミング前の異常と対処			Dog G P W B P302~305			
第12回	犬のアクシデント 信頼されるトリマー	アクシデントが起こった場合の対処 お客さまから信頼されるトリマーになるために必要なこと ドッグマナーライセンス受験をする心得、マナー AAV・JKCライセンス取得・更新・義務研修について						
第13回	各種トリマーライセンスの説明							
第14回	日常のケア	基本的なお手入れ方法について						
第15回	犬体用語(1)	犬体各部の専門用語 頭部、耳、鼻						
第16回	犬体用語(2)	犬体各部の専門用語 目、吻、頸						
第17回	犬体用語(3)	犬体各部の専門用語 胸、腰尻、肢						
第18回	犬体用語(4)	犬体各部の専門用語 肢勢、尾						
第19回	犬体用語(5)	犬体各部の専門用語 被毛						
第20回	犬体用語(6)	犬体各部の専門用語 毛色						
第21回	犬体用語(7)	犬体各部の専門用語 歩様						
第22回	グルーミング用語(1)	グルーミングに対する専門用語①						
第23回	グルーミング用語(2)	グルーミングに対する専門用語②						
第24回	グルーミング用語(3)	グルーミングに対する専門用語③						
第25回	グルーミング用語(4)	グルーミングに対する専門用語④						
第26回	洗浄剤とケア製品についての知識(1)	洗浄剤の歴史と仕組み 犬の被毛について			Dog G P W B P288~291			
第27回	洗浄剤とケア製品についての知識(2)	犬用シャンプー・リンスについて リンス、コンディショナーの役割と効果			Dog G P W B P293~295			
第28回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習			試験範囲説明			
第29回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験			単位認定試験			
第30回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	犬種別トリミング学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬種別のグルーミング方法。トリミングの基礎であるベーシックを学習。短毛犬種、中型犬種、大型犬種など、犬種別のグルーミングの知識を覚える。ブラッシング・爪切り・耳掃除など基本的知識を身につけ、多くの犬種のベーシックができるようになる。							
授業の一般目標	様々な犬種のベーシック・グルーミング(基本的な手入れ)が確実にできるようになる。 全コースの学生が簡単なトリミング(無駄毛のカット)ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単な基本トリミング(整毛・カット)方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要なお手入れ方法の必要性について、顧客等に説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・トリミング方法を理解し、専門分野(技術)へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、人と犬が共存する中でお互いが快適に過ごせるように手入れを施すことができ、顧客にアドバイスできる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	自己紹介・授業前アンケート 授業開始について グルーミングの必要性	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 なぜ、手入れが必要か？ トリマー(グルーマー)の心得とは？				トリマーの基礎知識 P.34～35		
第2回	グルーマー(トリマー)の心得	グルーマー(トリマー)が心得ておかなければならないこと				トリマーの基礎知識 P.34～35		
第3回	犬の体のつくり 犬体名称 断尾・断耳について	グルーミングを行う上で必要な体温・脈拍・呼吸数を覚える 犬の主な犬体部位名称				トリマーの基礎知識 P.8～11		
第4回	骨格名称、美容的名称 モデル犬の取り扱い方①	骨格・美容的な名称 モデル犬の正しい取り扱い方法・留意点を覚える				トリマーの基礎知識 P.12～13、P.37～39		
第5回	モデル犬の取り扱い方②	モデル犬の正しい取り扱い方法・留意点を覚える オス・メス、幼齢犬・高齢犬の取り扱い方 アームを使用するにあたっての注意事項				トリマーの基礎知識 P.40～41		
第6回	被毛と皮膚、耳の構造、 歯列・咬合について	犬の被毛・皮膚の構造、耳の構造、歯列・咬合を覚える				トリマーの基礎知識 P.17～21		
第7回	ポメラニアンの基本トリミング(1)	スタンダード解説 足回り、耳先、お尻周りのカット				最新犬種図鑑		
第8回	ポメラニアンの基本トリミング(2)	アンダー・ライン、尾軸の付け根、パンティー・フェザーのカット						
第9回	ブードル犬種のトリミング方法(1)	スタンダード解説 ベーシック・クリップ(顔部)				最新犬種図鑑		
第10回	ブードル犬種のトリミング方法(2)	ベーシック・クリップ(足先、下腹部、尾軸)						
第11回	ブードル犬種のトリミング方法(3)	ベーシック・クリップ(Vネック・Uネック)						
第12回	ブードル犬種のトリミング方法(4)	ベーシック・クリップ(尾軸・肛門周囲)						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美			実務経験紹介				

科目名	健康管理学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬・猫の病気について、各コース共通に必要な知識を覚える。 犬・猫の病気について学び知識を身につける。							
授業の一般目標	飼養されているペットのオーナーに説明ができ、指導が出来るように知識を増やし、的確な助言ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	(1) めざせ早期発見！ わかる犬の病気 (2) 猫の教科書							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬・猫の基本的な病気について概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬・猫が健康的に飼養管理できるように、基本的な疾病学を身に付け病気の蔓延を防ぐための予防法等を顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本的疾病学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、人と動物に共通する感染症の理解を深め、共存生活が快適に行えるようし、動物の病気に関する早期発見ができる観察力を付ける。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 体調異常のチェック				テキスト(1) P7～12		
第2回	トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気(2) 早期発見するための部位別病気の知識(1)	人畜共通感染症 皮膚のつくりと働き				テキスト(1) P14～15 P18～21		
第3回	早期発見するための部位別病気の知識(2)	皮膚の病気 ①				テキスト(1) P22～29		
第4回	早期発見するための部位別病気の知識(3)	皮膚の病気 ②				テキスト(1) P30～39		
第5回	早期発見するための部位別病気の知識(4)	耳の病気				テキスト(1) P40～49		
第6回	早期発見するための部位別病気の知識(5)	目の病気				テキスト(1) P50～59		
第7回	早期発見するための部位別病気の知識(6)	鼻と口の病気				テキスト(1) P60～67		
第8回	早期発見するための部位別病気の知識(7)	おしり・お腹まわりの病気				テキスト(1) P68～77		
第9回	早期発見するための部位別病気の知識(8)	足先・膝・腰まわりの病気				テキスト(1) P78～88		
第10回	シャンプーの基礎知識	薬用シャンプーについて				テキスト(1) P90～100		
第11回	正しい清掃と消毒方法の基礎知識 ワクチンの基礎知識	正しい清掃・消毒方法 ワクチンの種類				テキスト(1) P102～105 P106～109		
第12回	猫の健康(1)	ワクチン接種について ネコの健康チェック				テキスト(2) P102～109		
第13回	猫の健康(2)	罹患率の高い病気について						
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介				

科目名	基礎看護学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物関係の仕事に就く上で犬・猫の必要最低限の看護知識を覚える。 必要最低限の看護知識・応急処置法を身につける。							
授業の一般目標	動物が緊急事態に陥った時に最低限の応急処置が行える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンパニオンアニマルの新・健康管理学							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬・猫の必要最低限な看護知識の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬・猫が健康的に管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本的な看護知識を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的な看護知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、危険予測や応急処置ができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、犬・猫の日常健康管理が行え、非常事態の早期発見と的確な応急処置が行える。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について バイタルサイン①	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 バイタルサインとは【 T(体温) P(脈拍) 】						
第2回	バイタルサイン②	バイタルサインとは【 R(呼吸) 】						
第3回	バイタルサイン③	バイタルサイン (CRT・粘膜色)						
第4回	応急処置対応①	心肺蘇生 A(気道確保) B(人工呼吸) C(循環)						
第5回	応急処置対応②	交通事故						
第6回	応急処置対応③	輸送について 創傷の種類と手当て						
第7回	応急処置対応④	止血方法・骨折の種類と手当て						
第8回	応急処置対応⑤	ショック・ケイレン発作、眼球突出、熱中症の手当て						
第9回	予防医学①	ワクチンについて①(犬)						
第10回	予防医学②	ワクチンについて②(狂犬病・猫)						
第11回	予防医学③	フィラリア・ノミ・マダニについて						
第12回	予防医学④	避妊手術・去勢手術						
第13回	予防医学⑤	日常のケアで防げる疾病・ケガ				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	高砂 珠乃			実務経験紹介				

科目名	愛玩動物飼養管理学		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物飼養管理士試験【2級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士2級の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	愛玩動物飼養管理士2級に合格する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	愛玩動物飼養管理士【2級】教本 第1・2巻							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物の愛護及び管理に関する法律で対象となる動物について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	動物の愛護及び管理に関する法律で対象となる動物について、健康的に飼養管理ができる基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	基本的知識を身に付け、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	動物の愛護及び管理に関する法律で対象となる動物についての正しい飼養環境作り、適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、愛玩動物飼養管理士 2級 資格を取得し、ペット業界で活用する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 愛玩動物飼養管理士学(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 愛玩動物飼養管理士について、ボランティア活動の捉え方						
第2回	愛玩動物飼養管理士学(2)	人と動物の関係学 ①						
第3回	愛玩動物飼養管理士学(3)	人と動物の関係学 ②						
第4回	愛玩動物飼養管理士学(4)	動物愛護思想とその歴史 ①						
第5回	愛玩動物飼養管理士学(5)	動物愛護思想とその歴史 ②						
第6回	愛玩動物飼養管理士学(6)	動物愛護思想とその歴史 ③						
第7回	愛玩動物飼養管理士学(7)	動物愛護思想とその歴史 ④						
第8回	愛玩動物飼養管理士学(8)	ペット業界の現状と広がり						
第9回	愛玩動物飼養管理士学(9)	動物のからだの仕組みと働き ①						
第10回	愛玩動物飼養管理士学(10)	動物のからだの仕組みと働き ②						
第11回	愛玩動物飼養管理士学(11)	動物のからだの仕組みと働き ③						
第12回	愛玩動物飼養管理士学(12)	動物の飼養管理 ①						
第13回	愛玩動物飼養管理士学(13)	動物の飼養管理 ②						
第14回	愛玩動物飼養管理士学(14)	動物の飼養管理 ③						
第15回	愛玩動物飼養管理士学(15)	動物の飼養管理 ④						
第16回	愛玩動物飼養管理士学(16)	動物の飼養管理 ⑤						
第17回	愛玩動物飼養管理士学(17)	動物のしつけ ①						
第18回	愛玩動物飼養管理士学(18)	動物のしつけ ②						
第19回	愛玩動物飼養管理士学(19)	動物のしつけ ③						
第20回	愛玩動物飼養管理士学(20)	総復習 試験対策 ①						
第21回	愛玩動物飼養管理士学(21)	総復習 試験対策 ②						
第22回	愛玩動物飼養管理士学(22)	総復習 試験対策 ③						
第23回	愛玩動物飼養管理士学(23)	総復習 試験対策 ④						
第24回	犬と猫の栄養学、5大栄養素(1)	エネルギー・たんぱく質						
第25回	犬と猫の栄養学、5大栄養素(2)	炭水化物・脂質						
第26回	犬と猫の栄養学、5大栄養素(3)	ビタミン・ミネラル・水						
第27回	ペットフード(1)	フードの種類						
第28回	ペットフード(2)	ペットフードの表示						
第29回	振返り授業、試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第30回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介				

科目名	動物行動学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬・猫種による行動の異なりから、成長段階にみられる行動を覚える。 それぞれの対応を学び、固体における基本的な行動の意義・機序を理解し飼い主指導に活かす。							
授業の一般目標	犬・猫種の行動をそれぞれの分類に分けて考えることで、問題行動についてのしつけを理解し、 適正飼養と人と動物の共存に寄与することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬種・猫種の行動学についての概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬種・猫種の行動生態の基本的知識を身に付け、顧客等に適切な説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬種・猫種に関する行動を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	犬種・猫種に関する行動に基づき、正しい飼養環境作り、適正な飼養管理を行うことができ、必要に応じて顧客へ教育指導ができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な動物行動学の知識を修得し、本来の習性・生態を理解し、簡単な問題行動の検証・改善ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 行動学の歴史(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 メンデル、ダーウィン、ファール他						
第2回	行動学の歴史(2)	バプロフ条件とレスポデント						
第3回	行動学の歴史(3)	反射と走性						
第4回	行動学の歴史(4)	犬種分け						
第5回	行動生態(1)	遺伝要因						
第6回	行動生態(2)	後天性学習						
第7回	行動生態(3)	社会行動						
第8回	行動生態(4)	機能分類①						
第9回	行動生態(5)	機能分類②						
第10回	行動生態(6)	機能分類③						
第11回	行動学的問題行動(1)	推測と予想						
第12回	行動学的問題行動(2)	目的と行動						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介				

科目名	小動物飼育学Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に注意すべき事項を学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質(QOL)の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 本校での小動物飼育について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 食性の違いを説明できる。 一般的に知られている愛玩動物(小動物)を適正な飼育方法で飼育できる。 ・ウサギ、ハムスター、モルモット、チンチラ ・フェレット、ハリネズミ ・小鳥(セキセイインコ等) 飼育での注意点を知る。 学校飼育動物のQOLの向上を図る。 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に本校で飼養している小動物についての特徴・食性・飼養方法・取り扱い方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	主に本校で飼養している小動物について、動物達が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等の正しく説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	小動物の正しい飼養方法・取り扱い方法を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	小動物の飼養方法・取り扱い方法に基づき、正しい飼養環境作り、適正な飼養管理、取り扱いを行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、本校で飼養している小動物達を健康に飼養管理ができる。 日常管理を行うとともに、何か問題点がないかの眼識を養い、観察力を付ける。								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 小動物飼育実習概論	授業の必要性・概要・目標・目的についての説明・進め方 授業の目的を知り、飼育に活かす				この授業の流れに ついての説明		
第2回	小動物(エキゾチックアニマル)とは?	小動物(エキゾチックアニマル)とはどのような動物をいうか説明できる						
第3回	本校における小動物飼育の流れ 飼育時の注意点	本校の小動物飼育の流れ・注意点を知り、それを守りながら飼育ができる						
第4回	ウサギの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のウサギの生態・習性を知り、本校におけるウサギの飼育方法を守って飼育ができる						
第5回	ハムスターの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のハムスターの生態・習性を知り、本校におけるハムスターの飼育方法を守って飼育ができる						
第6回	モルモットの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のモルモットの生態・習性を知り、本校におけるモルモットの飼育方法を守って飼育ができる						
第7回	チンチラの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のチンチラの生態・習性を知り、本校におけるチンチラの飼育方法を守って飼育ができる						
第8回	フェレットの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のフェレットの生態・習性を知り、本校におけるフェレットの飼育方法を守って飼育ができる						
第9回	ハリネズミの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のハリネズミの生態・習性を知り、本校におけるハリネズミの飼育方法を守って飼育ができる						
第10回	セキセイインコの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のセキセイインコの生態・習性を知り、本校におけるセキセイインコの飼育方法を守って飼育ができる						
第11回	ネコの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のネコの生態・習性を知り、本校におけるネコの飼育方法を守って飼育ができる						
第12回	終生飼育を考える① 《グループワーク》	この授業を受けて、考えたこと感じたことをグループ単位で意見交換し、今後の動物飼育に活かすことができる						
第13回	終生飼育を考える② 《グループワーク》	前回の授業にて、グループ内でまとめた意見をクラス単位で発表し、今後の動物飼育に活かすことができる						
第14回	前期振り返り／前期末試験	前期振り返り後、前期末試験(筆記試験)(50分)				単位認定試験		
第15回	試験振り返り(解説)	試験問題解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	愛犬飼育管理学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬種についての全般的な基本知識を覚える。							
授業の一般目標	JKC愛犬飼育管理士資格試験に合格する。							
受講条件	JKCクラブ会員学生							
事前学習について (テキスト・参考書等)	JKC 愛犬飼育管理士教本							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬種に関する全般的な専門知識の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	JKC愛犬飼育管理士資格取得できるように、必要な専門的知識を修得し活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	愛犬飼育管理士資格を取得後、より専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	犬の全般的な専門的知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、グルーミング・トリミング・カット技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
犬に関する全般的な専門的知識を修得し、JKC・愛犬飼育管理士資格を取得。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について、犬学(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 犬の起源と進化、犬の生態、犬の感覚				教本 P.137～143		
第2回	犬学(2) 適正な飼育管理	犬の生理、共生について 犬を飼う時の責任、飼育環境について				教本 P.144～145、P.81～87		
第3回	適正な健康管理(1)	健康管理について 栄養と食事				教本 P.91～102		
第4回	適正な健康管理(2)	感染症と予防接種、寄生虫症				教本 P.103～112		
第5回	適正な健康管理(3)	ズーノーシスについて				教本 P.113～123		
第6回	犬の繁殖学	犬の繁殖について				教本 P.127～133		
第7回	動物愛護	動物愛護について				教本 P.9～21		
第8回	動物愛護のための法律知識(1)	動物愛護のための法律知識①				教本 P.25～34		
第9回	動物愛護のための法律知識(2)	動物愛護のための法律知識②				教本 P.35～44		
第10回	動物愛護のための法律知識(3)	動物愛護のための法律知識③				教本 P.44～62		
第11回	動物愛護のための法律知識(4)	動物愛護のための法律知識④				教本 P.62～77		
第12回	猫、その他の動物	猫、その他の動物について				教本 P.149～155		
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	家庭犬訓練Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬とのふれ合いから、基本となる家庭飼養で必要なしつけ方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。							
授業の一般目標	病院、ショップで必要な基本的なしつけの実践ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に家庭犬に関する必要なしつけの必要性や概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	主に家庭犬が健康的に管理できる基本的なしつけの知識を身に付け、顧客等に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	主に家庭犬の日常飼養上で必要な基本的なしつけ学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主に家庭犬と人が共存する中で、スムーズな適正な飼養管理が行え、関係性を保つことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
家庭犬を飼養管理していく上で必要な基本的なしつけに関する知識を修得し、犬の習性・犬種による性格・扱い方を覚え、飼い主とその個体が快適な共存が保てるようにアドバイスができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 初対面のワンちゃんとの接し方	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 モデル犬との接し方、実習中の注意事項(事故予防)、授業・成績について 初めて会うにはいけないこと						
第2回	訓練からみた犬の起源 (1) ハウストレーニング	訓練からみた犬の起源(家畜化・共生・進化) リードの扱い方とカラーの選び方、 ケージへの出し入れ方法を覚える						
第3回	訓練からみた犬の起源 (2) アイコンタクト(1)	野生から家畜化へ Yesの使い方、アイコンタクト(ステップ1)を覚える						
第4回	訓練からみた犬の起源 (3) アイコンタクト(2)	家畜化・共生・進化について アイコンタクト(ステップ2、3)を覚える						
第5回	犬の学習(1)	観察学習、古典的条件づけについて トイレトレーニング、視符の使い方						
第6回	犬の学習(2)	道具的条件づけについて① ルアートレーニング						
第7回	犬の学習(3)	道具的条件づけについて② リードの扱い方						
第8回	犬の感覚(1)	嗅覚について ウェイトの練習						
第9回	犬の感覚(2)	視覚について スタンド・ウェイトの練習						
第10回	犬の感覚(3)	聴覚・味覚について ドアの出入り練習						
第11回	犬の感覚(4)	触覚について カムの練習						
第12回	犬の先天的な能力(1)	ボディー・ランゲージについて 犬の歩様について						
第13回	犬の先天的な能力(2)	カーミングシグナルについて 復習				試験範囲説明		
第14回	復習、試験実施	復習、試験実施				単位認定試験		
第15回	授業を終えて	試験の解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○						20	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	小泉 秀明			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			

科目名	パピーケアーⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	生後1ヵ月から1歳になるまでの犬について、しつけ・栄養・健康面の基礎知識を身につける。 飼い主との家族関係を踏まえ、アドバイスができる。							
授業の一般目標	総合的視野から犬の成長に必要な基礎知識を覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に生後12ヵ月未満の子犬に関する必要な基本的な訓練(しつけ)の必要性や概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	生後12ヵ月未満の子犬を主体に健康的に管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	生後12ヵ月未満の子犬を主体に、日常飼養上で必要な基本的訓練(しつけ)学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	生後12ヵ月未満の子犬を主体に人と共存する中で、スムーズな適正な飼養管理を行えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、特に新しく飼養する子犬を迎え入れる時期に必要な訓練(しつけ)が飼い主に助言ができ、自らも行える。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	自己紹介 授業について	自己紹介 授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方						
第2回	ケアー	子犬の選び方、接し方、迎える準備						
第3回	仔犬と学ぶ	仔犬の叱り方、ほめ方、子犬と人の手の関係						
第4回	コマンドの確認(1)	アイコンタクト、タイミングの確認						
第5回	コマンドの確認(2)	コマンドの確認(マズル・コントロール、シャドーイング)						
第6回	チェック方法について	犬体チェック方法 社会化期について				課外授業		
第7回	幼年期(1)	リード・カラーの使い方						
第8回	幼年期(2)	散歩の方法						
第9回	実技(1)	実習トレーニング導入						
第10回	実技(2)	オビディエンス(パピー・スクールについて)						
第11回	実技(3)	オペラントの条件づけ						
第12回	実技(4)	おいで・まて						
第13回	実技(5)・復習	ふせ・ヒール・スタンド						
第14回	試験	実技試験				単位認定試験		
第15回	試験の振り返り、まとめ	試験解答、復習				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点、演習点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		10	
出席			○				10	
担当教員	伊勢村 恵津子			実務経験紹介				

科目名	グルーミング I		単位数	6	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本的なグルーミング方法を覚え、技術を身に付ける。 トリマーコースは、後期の美容 I 実習授業へ確実なグルーミングが行えるようになる。 トレーナー&アドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサリントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。							
授業の一般目標	基本グルーミング・ベーシッククリッピングに関する技術を修得し、目標時間(2時間～2時間30分)内に仕上げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単なベーシック・クリッピング方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要な基本的な手入れ方法の必要性について、顧客等に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・ベーシッククリッピング技術を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的な技術を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級(トリマーコース)、3級(トレーナー・アドバイザーコース)資格の取得							
授業計画(全体)	基本的なグルーミング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるように、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。							
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 自己紹介 美容用具の配布・確認 美容実習室の設備・備品について	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 自己紹介(氏名・志望選択コース・飼養動物種のリサーチ) 美容用具の配布と種類の確認 美容実習室内の設備・備品・シャンプー・リンス剤の希釈等についての注意事項						
第2回	美容実習授業の一日の流れ、美容実習授業時の注意点	実習時の服装・態度・準備物・注意事項を覚え、実習授業時の一日の流れを覚える						
第3回	ドッグ・ショーについて、研修の事前学習	JKCドッグ・ショーの進行方法・審査方法、見学研修前に事前学習、トナメント方式、年齢別クラス区分、マナー等、美容実習室内の設備使用について						
第4回	モデル・グルーミング、実技 短毛種(1)	ベーシック実習のモデルグルーミング、チワワ(4頭…2教室に分かれる)教員仕上げ、チワワ(スムース・ヘッド)、学生2名で1頭仕上げ						
第5回	実技 中毛種(1)	チワワ(ロング・ヘッド) 学生2名で1頭仕上げ						
第6回	実技 その他の短毛種(1)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)						
第7回	実技 短毛種(2)	チワワ(スムース・ヘッド) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)						
第8回	実技 中毛種(2)	チワワ(ロング・ヘッド)、ダックスフンド(ロング・ヘッド):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)						
第9回	実技 その他の中毛種(1)	ペキニーズ、狒、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)						
第10回	実技 その他の中毛種(1) 大型犬	フラット・コートド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)						
第11回	実技 短毛種(3)	チワワ(スムース・ヘッド) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)						
第12回	実技 中毛種(3)	チワワ(ロング・ヘッド):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)						
第13回	実技 その他の短毛種(2)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)				実技テスト(1)		
第14回	実技 短毛種(4)	チワワ(スムース・ヘッド) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)				実技テスト(2)		
第15回	実技 中毛種(4)	チワワ(ロング・ヘッド):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)				実技テスト(3)		
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点、演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	実務研修 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。</p> <p>(1) 就職を考えさせ早期就職内定へ繋げる。 (2) ペット業界での自分の適性や仕事の内容について自己分析する。 (3) ペット業界への関心・就職への意欲を高め、日々の学校生活に対する意欲を高める。</p>							
授業の一般目標	<p>1. ペットショップ・動物病院の実践的経験 2. 職業意識の育成 3. いろいろな人の持つ考え方や行動に触れることにより、学生としてではなく、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。実践的な経験により、自主的に行動ができる人材を育成する。</p>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット業界とはどのようなものなのか、業界について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペット業界においてインターンシップで経験したことを就職活動へ活用ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペット業職に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ペット業界での仕事に対する意欲を高め、インターンシップ先についても主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
実務研修を通して、ペット業界の現場実態を把握・体験し、就職活動へ繋げる意欲を高める。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サロン訪問について						
第2回	インターンシップの目的確認 インターンシップ先の選定	インターンシップについての目的について確認						
第3回	インターンシップ先との日程調整 企業研究	ペットショップ・動物病院研究インターンシップ先希望先を提出 インターンシップ先に受け入れ依頼と日程調整の電話						
第4回	提出書類の作成 事前準備	実務記録書類・誓約書等の作成・提出 実習当日の流れ・所作を確認						
第5回 ～ 13回	インターンシップ先での実務研修	各自のインターンシップ先で実務研修						
第14回	実務研修の振り返り・実務記録作成	実務記録書類を完成						
第15回	お礼状作成	インターンシップ先へのお礼状作成 今後の就職活動について						
成績評価方法								
出席100%が前提となる 出席時間不足のための補習は行わず、欠席・時間不足者については振替登校日に課題等をさせる。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			40	良 (B):79点～70点
授業態度			◎	◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	○		◎	◎			20	
出席			◎				10	
担当教員	井田 亜由美、山極 夏希			実務経験紹介				

科目名	キャリアデザイン I		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動に実践で活用できる内容を感じる。 就職内定100%							
授業の一般目標	就職活動に関する必要な知識を覚え、個々の就労意識を高め、就職活動に役立てる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	未来ノート、就活NAVIノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	就職活動とは何かについて、活動するにあたっての課題の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた就職に向けての内容を活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	就職活動に関する関心を広げ、企業研究を行い、就職に向けての意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	授業を受けている中で就職活動について、主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	将来像を描いた自分の夢の実現に向かい、自己分析ができ、企業研究ができる。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について クラス・グループ活動(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 年間行事予定確認、その他諸々の連絡・注意事項、学生便覧の説明				担任		
第2回	就職活動について クラス・グループ活動(2)	就職活動の流れ オープンキャンパス・学生スタッフについて/ドッグショー研修について				CS/担任		
第3回	専門学校と今までの学校の違い キャリア・サポートについて	卒業後の人生を意識した学び/社会人基礎力について キャリアサポート室利用に関する注意事項				CS/担任		
第4回	チーム学習を進めるために	コミュニケーション能力を高めるために チームワークについて考える				CS		
第5回	クラス・グループ活動(3)	国内宿泊研修について/研修グループ・役割決め 海外研修の説明				担任		
第6回	クラス・グループ活動(4)	国内宿泊研修の詳細説明・事前準備				担任		
第7回	自己理解(1)	QUアンケート/授業アンケート				CS/担任		
第8回	社会人基礎力(1)	報告・連絡・相談の重要性/コミュニケーション能力とは				CS		
第9回	就職活動事例紹介	過去の事例紹介/就職活動シミュレーション				CS		
第10回	自己理解(2)	自己分析/長所と短所を知る				CS		
第11回	企業研究(1)	就職先を考える/企業研究の方法				CS		
第12回	コース説明	後期からのコース選択について				CS/担任		
第13回	クラス・グループ活動(5)	ほりかわ祭内容決め①				担任		
第14回	クラス・グループ活動(6)	ほりかわ祭内容決め②				担任		
第15回	前期のまとめ 社会人基礎力(2)	就職活動の流れを確認/コース選択用紙の回収 ビジネス・マナー/敬語の使い方				CS		
第16回	就職活動オリエンテーション	就職ガイダンス キャリアマップ登録				CS		
第17回	クラス・グループ活動(7)	ほりかわ祭準備①				担任		
第18回	職務適正テスト	職務適正テスト				CS/外部講師		
第19回	クラス・グループ活動(8)	ほりかわ祭準備②				担任		
第20回	未来ノート 自己理解①	私の大切なもの探し ネガポジマップ				CS		
第21回	職務適正テストの結果分析	職務適正テスト返却 外部講師による就職活動講座				CS/外部講師		
第22回	未来ノート 自己理解②	ジョハリの窓				CS		
第23回	未来ノート 自己理解③	過去を振り返ろう(ライブイベント)				CS		
第24回	未来ノート 自己理解④	自己分析+他己分析→自己PR作成				CS		
第25回	未来ノート 仕事理解①	チラシを作ってみよう!				CS		
第26回	未来ノート 仕事理解②	ビジネスに必要な8つの意識と義務				CS		
第27回	企業研究(2)	企業研究シート作成				CS		
第28回	就職活動実践講座(1)	履歴書の書き方 インターンシップに必要な書類について				CS		
第29回	就職活動実践講座(2)	求人票の見方 面接でよく出る質問例				CS		
第30回	就職活動実践講座(3)	エントリーシート作成+模擬面接 インターンシップについて				CS		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点、演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			30	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	○		◎	◎			30	
出席			○				10	
担当教員	キャリアサポートスタッフ / 井田 亜由美、山極 夏希			実務経験紹介				

科目名	キャリアデザインⅡ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動に実践で活用できる内容の学習と習得。 就職内定100%							
授業の一般目標	就職活動に関する必要な知識を学び、個々の就労意識を高め、就職活動に役立てる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート、実践！キャリア・コミュニケーション							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	就職活動とは何かについて、目指す方向性、就職活動に関する課題と進め方の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた就職に向けての内容を活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	就職活動に関する関心を広げ、企業研究を行い、就職に向けての意識を高め、就職内定へ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	授業を受けている中で、就職活動について、主体的に考え、行動することができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
自己分析を行い、企業研究をもとに就職先を決定し内定に繋げるための活動をする。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	クラス・グループ活動(1) インターンシップについて(1)		年間行事予定確認、その他諸々の連絡・注意事項 春休みインターンシップの振り返り			CS/担任		
第2回	クラス・グループ活動(2)		オープンキャンパス・学生スタッフについて/ドッグショー研修について			担任		
第3回	就職活動実践講座(1) インターンシップについて(2)		グループ・ディスカッション/身だしなみについて インターンシップに向けた企業・サロン研究			CS/担任		
第4回	インターンシップについて(3)		インターンシップに向けた企業・サロン研究/応募先決定			CS/担任		
第5回	就職活動実践講座(2)		採用面接対策			CS/担任		
第6回	インターンシップについて(4)		インターンシップ事前準備			CS/担任		
第7回	自己理解(1)		QUアンケート/授業アンケート			担任		
第8回	インターンシップについて(5)		インターンシップお礼状作成			CS/担任		
第9回	インターンシップについて(6)		インターンシップ振り返り・就職活動進捗調査			CS/担任		
第10回	自己理解(2)		社会人になるにあたって/卒業後のキャリアプラン			CS/担任		
第11回	社会人基礎力(1)		生涯設計について/年金について			CS/担任		
第12回	社会人基礎力(2)		敬語の使い方/社会人に求められるコミュニケーション能力			CS/担任		
第13回	クラス・グループ活動(3)		ほりかわ祭内容決め①			担任		
第14回	クラス・グループ活動(4)		ほりかわ祭内容決め②			担任		
第15回	社会人基礎力(3)		新入社員ケース・スタディー			担任		
第16回	就職活動まとめ		就職活動進捗調査/入社までの流れ			CS/担任		
第17回	クラス・グループ活動(5)		ほりかわ祭準備①			担任		
第18回	クラス・グループ活動(6)		ほりかわ祭準備②			担任		
第19回	卒業制作(1)		卒業制作準備①			担任		
第20回	卒業制作(2)		卒業制作準備②			担任		
第21回	卒業制作(3)		卒業制作準備③			担任		
第22回	卒業制作(4)		卒業制作準備④			担任		
第23回	資格対策(1)		サロントリマー検定対策/各種資格検定対策			担任		
第24回	仕事理解(1)		ケーススタディで学ぶ実際の仕事			CS/担任		
第25回	仕事理解(2)		仕事選択～未来に向けて～			CS/担任		
第26回	資格対策(4)		サロントリマー検定対策/各種資格検定対策			担任		
第27回	資格対策(5)		サロントリマー検定 筆記試験			担任		
第28回	卒業後のキャリア相談について		卒業式について 10年サポートについて			CS/担任		
第29回	卒業制作(5)		卒業発表会リハーサル			担任		
第30回	卒業制作(6)		卒業発表会リハーサル			担任		
成績評価方法								
単位認定 出席率 80%以上と課題提出をもって、合否判定を行う								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			30	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	○		◎	◎			30	
出席			○				10	
担当教員	キャリアサポートスタッフ/2年生担任			実務経験紹介				

科目名	ビジネス・マナー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	接客対応の基礎『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。							
授業の一般目標	サービス接客検定3級合格							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サービス接客検定 受験ガイド3級 改訂版、サービス接客検定 問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. サービス接客とは何かについて、接客業を上手に熟するための課題が説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域についての内容を、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. サービス接客に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. ペット業界(接客業)の中で、サービス接客の必要性を考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、サービス業であるペット業界(他分野職含む)へ就職した時、顧客に対して実践ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について サービス接客とは何か	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える 効果的な自己紹介の仕方ができる						
第2回	サービススタッフの資質(1)	必要とされる要件 明るさと誠実さ・適切な判断と表現・身だしなみについてを覚える						
第3回	サービススタッフの資質(2)	従業要件 良識をもつ、適切な判断と表現、清潔感についてを覚える						
第4回	専門知識(1)	サービス知識 サービスの意義・機能・種類を覚える						
第5回	専門知識(2)	従業知識 商業用語・経済用語を覚える						
第6回	一般知識	社会常識を覚える、時事問題を知る						
第7回	対人技能(1)	一般的な人間関係を築く						
第8回	対人技能(2)	接客知識、対人心理が理解できる 接客者としてマナーを心得る						
第9回	対人技能(3)	話し方、接客用語を覚える 提示・説明の仕方を覚える						
第10回	対人技能(4)	服装 接客者としての適切な服装を装う						
第11回	実務技能(1)	問題処理。環境整備についてを覚える						
第12回	実務技能(2)	金品管理・社交儀礼の業務ができる						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	サービス接客検定合格のポイント、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	城戸 さち子			実務経験紹介				

科目名	ビジネス電話	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	第1～3回授業については、サービス接遇検定に向けての継続授業。 接客対応の基礎『電話対応』の実務知識を覚える。 基本的な電話対応マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。							
授業の一般目標	第1～3回授業については、サービス接遇検定に向けての継続授業。 社会人としてのルール・マナーに則り、店舗・企業への勤務時での電話対応ができる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	電話対応・電話実務とは、どのようなものなのかについて説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	電話対応・電話実務についての内容を、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接客に関心を広げ、電話対応についての問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で敬語が使える、就職先において電話対応がスムーズに行える人材になる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
接客業で重要な電話対応に関する知識を得た上で、実践できる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	授業開始について サービス接遇検定に向けて(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービス接遇検定過去問 実践・解答・解説①			前期授業の続き			
第2回	サービス接遇検定に向けて(2)	サービス接遇検定過去問 実践・解答・解説②			前期授業の続き			
第3回	サービス接遇検定に向けて(3)	サービス接遇検定過去問 実践・解答・解説③			前期授業の続き			
第4回	社会人としての話し方	社会人としての話し方、PREP法と時系列法でスピーチ実践						
第5回	好印象なスピーチ	感じの良い話し方の講義、スピーチの実践						
第6回	話し方の基本	テキストにて話し方の基本を学習、5年・10年後の自分について発表						
第7回	葬儀のマナー(1)	葬儀の知識						
第8回	葬儀のマナー(2)	葬儀の作法、スピーチ実践						
第9回	社会人としてのマナー(1)	電話の受け答えについて						
第10回	社会人としてのマナー(2)	電話対応で心掛けること						
第11回	社会人としてのマナー(3)	場面に応じた心得について①						
第12回	社会人としてのマナー(4)	画面に応じた心得について②						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習			試験範囲説明			
第14回	振り返り授業・試験実施	サービス接遇検定合格のポイント、受験			単位認定試験			
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習				○	○		10	
出席			○				10	
担当教員	城戸 さち子			実務経験紹介				

科目名	基本IT技術 I	単位数	2	科目コード				
授業形態	講義・実習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
授業の一般目標	①コンピュータの基礎を理解し、メールやフォルダの作成ができるようにする。 ②Wordの操作を学習し、ビジネス文書や見栄えの良い文書を作成できるようにする。 ③ビジネス文書やビジネスメールについての構成やマナーを理解する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	Excel 2013 クイックマスター<基本編> Word 2013 クイックマスター<基本編> Power Point 2013 クイックマスター							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基礎ITの必要性と基礎知識の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	事務作業に必要な各領域についての理解と活用方法を覚える。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	基礎的なIT技術の関心を広げ、苦手分野を克服しながら課題をこなす。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的なIT知識・技術を修得し、現場に必要な情報処理が行えるようになる。 顧客管理等のパソコン管理が行え、作業効率を上げることができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	授業開始について コンピュータの基本操作とWordの基本	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方 Wordの画面構成と文字入力						
第2回	ビジネス文書の作成	ビジネス文書・メールの基礎知識 ページ設定、文字修飾について						
第3回	文書の作成	挨拶文の挿入、段落番号、インデントやタブについて						
第4回	表の作成	表を挿入し、編集する						
第5回	表の編集	表の体裁を整える						
第6回	表現力アップ	ワードアートや画像などの挿入・編集						
第7回	表現力アップ	図形、テキストボックスの作成・編集						
第8回	ビジュアル文書の作成	SmartArtグラフィック、ページ罫線の挿入・編集						
第9回	長文の作成	ヘッダー・フッター、段組みについて						
第10回	プレゼンテーション資料の基本	画面構成とスライドの作成						
第11回	オブジェクトや表の挿入・編集	画像や図形・図表、表の挿入と編集						
第12回	特殊効果の設定	画面の切り替え効果やアニメーション効果						
第13回	プレゼンテーションと試験範囲	プレゼンテーションについて 試験対策のポイント、確認			試験範囲説明			
第14回	試験実施	試験の実施			単位認定試験			
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	吉野 正巳			実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅱ	単位数	2	科目コード				
授業形態	講義・実習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 プレゼンテーションの作成 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
授業の一般目標	①Power Pointを利用したプレゼンテーション資料の作成とプレゼンテーションについて理解する。 ②Excelを使った表計算やグラフの作成ができるようにする。 ③データベース機能についての理解と必要なデータを効率よく管理・運用できるようにする。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	Excel 2013 クイックマスター<基本編> Word 2013 クイックマスター<基本編> Power Point 2013 クイックマスター							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 基礎ITの必要性と基礎知識の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 事務作業に必要な各領域についての理解と活用方法を覚え、合わせてプレゼンテーションができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 基礎的なIT技術の関心を広げ、プレゼンテーションを通して伝えたいことが発表できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的なIT知識・技術を修得し、課題について聴講者にわかりやすい資料作成を行い、プレゼンテーションができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	授業開始について プレゼンテーションの作成	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 プレゼンテーションの作成						
第2回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成						
第3回	プレゼンテーションの実施	プレゼンテーションの実施						
第4回	エクセルの基礎	エクセルの基本操作と簡単な表の作成						
第5回	エクセルの基本	表の作成、演算子や数式について						
第6回	数式の利用	関数の理解、オートSUMボタンを利用した関数の利用						
第7回	割合計算と関数の利用	絶対参照と相対参照、関数の挿入ボタンを利用した関数について						
第8回	グラフ	グラフの作成・編集						
第9回	条件で判断	I F関数とその他の関数						
第10回	エラー処理と表の作成	エラーの対処と表の作成						
第11回	データベース機能	並べ替え、データの抽出、条件付き書式について						
第12回	差し込み印刷	差し込み印刷						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習			試験範囲説明			
第14回	試験実施	試験の実施			単位認定試験			
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	吉野 正巳			実務経験紹介				

科目名	総合学習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	校外実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前後/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。</p>							
授業の一般目標	<p>① 普段扱わない生き物の管理を行う。 ② 実社会に触れることによって、学習意欲が向上する。 ③ 集団行動を身につける。</p>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	研修・イベント等を通して、校内では学習できない知識・経験を得る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	普段授業で取り組めない各分野について学び、自分の経験値を高める。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	動物に関する他分野教育の関心を広げ、興味・問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
本校での授業内容にはないことを研修やイベントを通して、実際に体験することで観察力・探求心を付ける。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	宿泊体験研修	動物園・水族館等の施設で普段扱うことが出来ない生き物を対象に実習を行う						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	校外学習	JKCドックショー、動物感謝デー、盲導犬センター、インナーナショナルドックショー等のイベントに参加、または研修を行い、学内では体験できない事を行う						
第6回								
第7回								
第8回								
成績評価方法								
出席100%が前提となる 出席時間不足のための補習は行わず、欠席・時間不足者については振替登校日に課題等をさせる。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			40	良 (B):79点~70点
授業態度		○	◎	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	○		◎	◎			20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美、山極 夏希			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	総合学習Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	校外実習	対象学生	2年生	開設期	通期			
区分	必修	開設時期	前後/後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。							
授業の一般目標	① 普段扱わない生き物の管理を行う。 ② 実社会に触れることによって、学習意欲が向上する。 ③ 集団行動を身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	研修・イベント等を通して、校内では学習できない知識・経験を得る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	普段授業で取り組めない各分野について学び、自分の経験値を高める。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	動物に関する他分野教育の関心を広げ、興味・問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
本校での授業内容にはないことを研修やイベントを通して、実際に体験することで観察力・探求心を付ける。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	校外学習	JKCドックショー、動物感謝デー、盲導犬センター、インナーナショナルドックショー等のイベントに参加、または研修を行い、学内では体験できない事を行う						
第2回								
第3回								
第4回								
成績評価方法								
出席100%が前提となる 出席時間不足のための補習は行わず、欠席・時間不足者については振替登校日に課題等をさせる。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			40	良 (B):79点~70点
授業態度		○	◎	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習	○		◎	◎			20	
出席			○				10	
担当教員	2年生担任			実務経験紹介				

科目名	美容 I		単位数	6	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットイング(カット技術・整毛技術)方法を覚え、技術方法を身に付ける。							
授業の一般目標	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・クリッピング・カットイング技術を修得し、目標時間内に仕上げる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の取得へ繋げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、技術方法の実践ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、各分野について活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、その個体が健康的で適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級 及び JKCTトリマーC級ライセンス資格の取得							
授業計画(全体)								
基本的なグルーミング・カットイング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共生生活ができるようにし、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 実技 長毛種カット(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(5頭)						
第2回	実技 長毛種カット(2)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(5頭)						
第3回	実技 長毛種カット(3)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(8頭)						
第4回	実技 長毛種カット(4)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(8頭) レスンドッグ(シーズー) ブラッシング						
第5回	実技 長毛種カット(5)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭) レスンドッグ(シーズー) サマーカット①						
第6回	実技 長毛種カット(6)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭) レスンドッグ(シーズー) サマーカット②						
第7回	実技 長毛種カット(7)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭)						
第8回	実技 長毛種カット(8)	紙粘土制作 <マルチーズ サマーカット 骨組み>						
第9回	実技 長毛種カット(9)	紙粘土制作 <マルチーズ サマーカット>						
第10回	実技 長毛種カット(10)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)						
第11回	実技 長毛種カット(11)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)						
第12回	実技 長毛種カット(12)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)						
第13回	実技 長毛種カット(13)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) レスンドッグ 仕上げテスト(18名)				レスンドッグ 仕上げテスト		
第14回	実技 長毛種カット(14)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) レスンドッグ 仕上げテスト(18名)				レスンドッグ 仕上げテスト		
第15回	実技 長毛種カット(15)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) レスンドッグ 仕上げテスト(18名)				レスンドッグ 仕上げテスト		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			

科目名	美容Ⅱ		単位数	18	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各現場で通用するトリミング技術方法を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生から学んだ技術を後退させない。 時間短縮をより意識する。クリッピング時間の短縮。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。							
授業の一般目標	指定時間(1時間30分～2時間)内に、モデル犬1頭を一人で仕上げるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットング方法を覚え、技術方法の実践ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットング方法を覚え、個体が健康的な飼養管理が行えるように活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットング方法を覚え、関心を広げ、より高度な専門分野へ繋ぐことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットング方法を覚え、その個体が健康的で適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロントリマー 1級 及び JKCTリマーC級ライセンス資格の取得							
授業計画(全体)	専門的なグルーミング・カットング知識と技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共生生活ができるようにする。 必要に応じて顧客に的確なアドバイス・指導ができる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格を取得。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 実技(ブードル種 1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ブードル種の足先(趾先)・尾軸の刈り方を覚える						
第2回	実技(ブードル種 2)	ブードル種の顔部(Vネック)の刈り方を覚える レスンドッグ(ブードル) ブラッシング						
第3回	実技(ブードル種 3)	ブードル種の顔部(Uネック)の刈り方を覚える レスンドッグ(ブードル) ケネル&ラム・クリップ カット						
第4回	実技(ブードル種 4)	指(趾)止めカットの方法を覚える						
第5回	実技(ブードル種 5)	テディベアカットの体のトリミングを覚える						
第6回	実技(ブードル種 6)	テディベアカットの体・顔のトリミングを覚える						
第7回	実技(ブードル種 7)	テディベアカットの全体のシルエットを覚える						
第8回	実技(AMコッカー種 1)	Aコッカーの顔の刈り方を覚える						
第9回	実技(AMコッカー種 2)	Aコッカーの全体のトリミングを理解する						
第10回	紙粘土細工(2)	ブードル種 ケネル&ラムクリップを紙粘土で形作る						
第11回	実技(ポメラニアン 1)	ポメラニアンスタンダード・スタイルのカット方法を覚える						
第12回	実技(ポメラニアン 2)	ポメラニアン柴犬・スタイルのカット方法を覚える						
第13回	実技(ポメラニアン 3)	ポメラニアンライオン・スタイルのカット方法を覚える						
第14回	実技(ブードル種 8)	ケネル&ラムの前肢・後肢の作り方を覚える						
第15回	実技(ブードル種 9)	ケネル&ラムの頭部・頸の作り方を覚える						
第16回	実技(ブードル種 10)	ケネル&ラムの全体的なバランスの作り方(長所・短所を見極める)を覚える						
第17回	実技(JKC選抜テスト)	レッスン・ドッグ ケネル&ラム テスト				選抜テスト		
第18回	実技(JKC選抜テスト)	レッスン・ドッグ ケネル&ラム テスト				選抜テスト		
第19回	実技(シュナウザー種 1)	シュナウザーの顔の刈り方を覚える						
第20回	実技(シュナウザー種 2)	シュナウザーの全体のトリミングを覚える						
第21回	実技(ビション 1)	ビションフリーゼの顔のトリミングを覚える						
第22回	実技(ビション 2)	ビションフリーゼの全体のトリミングを覚える						
第23回	実技(ブードル種 11)	紙粘土作成 ブードル ケネル&ラム・クリップ 骨組み 紙粘土作成 ブードル ケネル&ラム・クリップ						
第24回	実技(ブードル種 12)	ムスタッシュの作り方・ベルトの入れ方を覚える						
第25回	実技(ブードル種 13)	チャンネルの入れ方を覚える						
第26回	実技(ブードル種 14)	バンドの入れ方を覚える				AAVサロントリマー1級ライセンス試験(実技・筆記)		
第27回	実技(テリア種 1)	ブラッキングの方法を覚える						
第28回	実技(テリア種 2)	ウエスティーの顔のトリミングを覚える				JKCTリマーC級ライセンス試験(実技・筆記)		
第29回	実技(テリア種 3)	ウエスティーの全体のトリミングを覚える				実技確認テスト		
第30回	実技(ブードル種 15)	ブードル種のデザイン・カット(応用)を覚える				実技確認テスト		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.vic-kvoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			

科目名	犬種別トリミング学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	専門的な犬種別トリミング方法、クリップスタイルを覚える。 より深く犬種を知り、犬種にあった専門的なトリミング方法の知識を覚える。							
授業の一般目標	シザーリング、スイニング、ブラッキング犬種のトリミングの専門的な知識を身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の専門的なグルーミング(手入れ)方法とカットイング(カット・整毛)技術方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように、必要な手入れ方法の必要性と各犬種の専門的なグルーミング(手入れ)方法・カットイング(カット・整毛)技術方法について、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の専門的なグルーミング方法・トリミング・カットイング方法の知識を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	専門的な知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各犬種のより高度な専門的なグルーミング・カットイング(カット・整毛)知識を覚える。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について マルチーズ スタンダード	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 開始前の伝達事項 スタンダード解説				最新犬種図鑑		
第2回	マルチーズ サマー・カット(1)	パピー・タイプの頭部カット方法について						
第3回	マルチーズ サマー・カット(2)	ボディのカット方法について(側望)						
第4回	マルチーズ サマー・カット(3)	ボディのカット方法について(前・後望、耳、尾)						
第5回	シーズー スタンダード、頭部カット	スタンダード解説 頭部のカット方法について				最新犬種図鑑		
第6回	ヨークシャー・テリア スタンダード ヨークシャー・テリア トリミング方法(1)	スタンダード解説 頭部、耳のトリミング方法について				最新犬種図鑑		
第7回	ヨークシャー・テリア トリミング方法(2)	ボディのカット方法について①						
第8回	ヨークシャー・テリア トリミング方法(3)	ボディのカット方法について②						
第9回	長毛種のラッピング方法	ラッピングの注意点、必要な犬種、パーティング・ライン						
第10回	イラスト ブードル ベルジアン・クリップ イラスト ポメラニアン	ブードル種の基本となる裸のイラストの描き方・注意点 ポメラニアン・ショータイプ 側望図						
第11回	ポメラニアン サマー・カット(1)	サマー・カットのバリエーション①						
第12回	ポメラニアン サマー・カット(2)	サマー・カットのバリエーション②						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説、総まとめ				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美			実務経験紹介				

科目名	トリマー演習		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	JKC・トリマーC級ライセンス取得、AAV・サロントリマー1級ライセンス取得のための知識(筆記試験対策)、その他デザインカットの知識を身につける。							
授業の一般目標	1. JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格合格レベルの技術を身に付ける(技術…1人で1頭、1時間30分～2時間以内で仕上げ) 2. JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格合格レベルの学科知識を覚える(JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の筆記テストに合格する) 3. デザインカット、カラーリング、エクステンションの知識を覚える							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の専門的なグルーミング(手入れ)に関する知識と各犬種に必要な専門的なトリミング・カット(整毛・カット)方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各協会ライセンスの資格取得できるように必要な専門的知識・手入れ方法について、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の専門的なグルーミング方法・トリミング・カット方法を理解し、より専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	専門的な知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、専門的なグルーミング技術やトリミング・カット技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級 及び JKCトリマーC級ライセンス資格の取得							
授業計画(全体)								
専門的な知識を修得し、各協会のライセンスを取得。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について トリマーライセンスについて	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 資格の分類と取得方法						
第2回	トリミング競技会について	競技会の内容						
第3回	競技会画像の試写会	視覚によるイメージトレーニング				画像資料		
第4回	ショー見学の結果	ドッグショーにおけるパピークリップとケネル&ラムの共通性				画像資料		
第5回	復習	ケネル&ラムクリップの復習 スタンダード、ブードル犬種について				グルーミングマニュアル 最新犬種図鑑		
第6回	イラストの描き方(1)	ケネル&ラムクリップ(基本となる骨格を考える)				小テスト、見本イラスト		
第7回	担当モデル犬を選ぶ(1)	サロントリマー用に使用するモデル犬を選ぶ(1回目)				ブリーダーカルテ		
第8回	学科の模擬試験(1)	模擬試験の実施と答え合わせ(犬体用語を覚える)				小テスト		
第9回	イラストの描き方(2)	イメージトレーニング(見本なしで、バランス・形を考える)						
第10回	切り絵	ケネル&ラムクリップ(全体のバランスを考える①)				色紙・図工ハサミ		
第11回	学科の模擬試験(2)	模擬試験の実施と答え合わせ(美容用語を覚える)				小テスト		
第12回	学科の模擬試験(3)	模擬試験の実施と答え合わせ(グルーミングの基本を覚える①)				小テスト		
第13回	学科の模擬試験(4)	模擬試験の実施と答え合わせ(グルーミングの基本を覚える②)				小テスト		
第14回	ケネル&ラムクリップ画像集	ケネル&ラムクリップ(お手本となる全体のバランスを考える②)						
第15回	学科の模擬試験(5)	模擬試験の実施と答え合わせ(ブードルのスタンダードを覚える)				小テスト		
第16回	学科の模擬試験(6)	模擬試験の実施と答え合わせ(ブードル犬種を覚える)				小テスト		
第17回	担当モデル犬を選ぶ(2)	サロントリマー用に使用するモデル犬を選ぶ(最終決定)						
第18回	学科の模擬試験(7)	模擬試験の実施と答え合わせ(テリア犬種を覚える①)				小テスト		
第19回	骨格を考える	美点(長所)と欠点、(短所)、遠望と近望について						
第20回	学科の模擬試験(8)	模擬試験の実施と答え合わせ(テリア犬種を覚える②)				小テスト		
第21回	競技会見学、義務研修会聴講	近畿ブロックトリミング競技会見学、トリマー義務研修会聴講				小テスト		
第22回	学科の模擬試験(9)	模擬試験の実施と答え合わせ(他犬種を覚える①)				小テスト		
第23回	学科の模擬試験(10)	模擬試験の実施と答え合わせ(他犬種を覚える②)				小テスト		
第24回	受験するにあたっての心得	スタックの方法、審査員へのマナー・アプローチ、 審査ポイント、試験中の態度・姿勢、注意事項について						
第25回	学科の模擬試験(11)	模擬試験の実施と答え合わせ(総合①)				小テスト		
第26回	イラストの描き方(3)	見本なしでケネル&ラム・クリップを完璧に描く				小テスト		
第27回	学科の模擬試験(12)	模擬試験の実施と答え合わせ(総合②)				小テスト		
第28回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第29回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第30回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							—	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							—	不可(E):59点以下
演習							—	
出席			○				10	
担当教員	松山 きらら			実務経験紹介				

科目名	犬種別トリミング学Ⅲ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	専門的な各犬種別トリミング方法を覚える。 1年時より深く犬種を知り、各犬種にあった専門的なトリミング・カット方法を覚える。							
授業の一般目標	1. JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の合格レベルの知識を身につける。 2. シザーリング、スイニング、ブラッキング犬種のトリミング知識を覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の専門的なグルーミング(手入れ)方法とカットイング(カット・整毛)・ブラッキング(被毛を抜く)技術方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように、各犬種の専門的なグルーミング(手入れ)方法・カットイング(カット・整毛)技術方法・ブラッキング(被毛を抜く)技法について、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の専門的なグルーミング方法・トリミング・カットイング・ブラッキング方法の知識を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	専門的な知識を身に付け、正しく身体を取り扱うことができ、グルーミング技術やトリミング・ブラッキング技術へ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	各犬種の高度な専門的グルーミング・カットイング(カット・整毛)・ブラッキングの知識を覚える。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	授業開始について ブードル スタンダード	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ブードル犬種 スタンダード解説			最新犬種図鑑 P. 184～185			
第2回	ブードル ケネル&ラム・クリップ(1)	ケネル&ラム・クリップ トリミング方法①			Dog G P W B P76～89 最新ドッググルーミングM P96～105			
第3回	ブードル ケネル&ラム・クリップ(2)	ケネル&ラム・クリップ トリミング方法②			Dog G P W B P76～89 最新ドッググルーミングM P96～105			
第4回	マルチーズ等の背・胴バリカン使用トリミング方法について	サロンにおける主流カット			Dog G P W B P180～189			
第5回	ブードル犬種について(1)	ブードル種全般について(歴史・沿革・クリップの由来・クリッピング時の注意点、好まれる理由等)						
第6回	ブードル犬種について(2)	ブードル種全般について(トリミングの手順、シャンプー&ドライイング時の注意点、カットイング&チップング時の注意点等)						
第7回	ブードル犬種について(3)	ブードル種全般について(耳&四肢の付属形、ムスタッシュの種類等) テディー・ベアカットを覚える						
第8回	スイニング犬種 (1)	アメリカン・コッカー・スパニエル スタンダード解説 ペット・トリミング クリッパー仕上げ①			最新犬種図鑑 P. 152 Dog G P W B P76～89 最新ドッググルーミングM P180～185			
第9回	スイニング犬種 (2)	ペット・トリミング クリッパー仕上げ②			Dog G P W B P76～89 最新ドッググルーミングM P180～185			
第10回	スイニング犬種 (3)	ペット・トリミング クリッパー仕上げ③ イングリッシュ・コッカー・スパニエル スタンダード解説			Dog G P W B P76～89 最新ドッググルーミングM P96～105 最新犬種図鑑 P. 156			
第11回	スイニング犬種 (4)	ペット・トリミング クリッパー仕上げ①			最新ドッググルーミングM P188～195			
第12回	スイニング犬種(5) ミニチュア・シュナウザー スタンダード	ペット・トリミング クリッパー仕上げ③ ミニチュア・シュナウザー スタンダード解説			最新ドッググルーミングM P188～195 最新犬種図鑑 P. 59			
第13回	ミニチュア・シュナウザー ペット・トリミング(1)	ペット・トリミング クリッパー仕上げ①			Dog G P W B P140～153 最新ドッググルーミングM P204～213			
第14回	ミニチュア・シュナウザー ペット・トリミング(2)	ペット・トリミング クリッパー仕上げ②			Dog G P W B P140～153 最新ドッググルーミングM P204～213			
第15回	長脚テリア種のトリミング (1)	ワイヤーフォックステリア スタンダード解説 ワイヤーフォックステリア ペット・トリミング方法①			最新犬種図鑑 P. 98 最新ドッググルーミングM P280～289			
第16回	長脚テリア種のトリミング (2)	ワイヤーフォックステリア ペット・トリミング方法②			最新ドッググルーミングM P280～289			
第17回	短脚テリア種のトリミング (1)	ウエストハイランド・ホワイトテリア スタンダード解説 ウエストハイランド・ホワイトテリア ペット・トリミング方法①			最新犬種図鑑 P. 97 Dog G P W B P156～166 最新ドッググルーミングM P272～279			
第18回	短脚テリア種のトリミング (2)	ウエストハイランド・ホワイトテリア ペット・トリミング方法②			Dog G P W B P156～166 最新ドッググルーミングM P272～279			
第19回	シザーリング犬種 (1)	ピジョンフリーゼ スタンダード解説 ピジョンフリーゼ ペット・トリミング ①			最新犬種図鑑 P. 168 最新ドッググルーミングM P156～163			
第20回	シザーリング犬種 (2)	ピジョンフリーゼ ペット・トリミング ②			最新ドッググルーミングM P156～163			
第21回	短脚テリア種のトリミング (3)	スコティッシュテリア スタンダード解説 スコティッシュテリア ペット・トリミング方法 ①			最新犬種図鑑 P. 90 最新ドッググルーミングM P244～253			
第22回	短脚テリア種のトリミング (4)	スコティッシュテリア ペット・トリミング方法 ②			最新ドッググルーミングM P244～253			
第23回	シザーリング犬種 (3)	ペドリンントテリア スタンダード解説 ペドリンントテリア ペット・トリミング方法①			最新犬種図鑑 P. 74 最新ドッググルーミングM P164～169			
第24回	シザーリング犬種 (4)	ペドリンントテリア ペット・トリミング方法②			最新ドッググルーミングM P164～169			
第25回	シザーリング犬種 (5)	ケリーブルーテリア スタンダード解説 ケリーブルーテリア ペット・トリミング方法①			最新犬種図鑑 P. 83 最新ドッググルーミングM P170～177			
第26回	シザーリング犬種 (6)	ケリーブルーテリア ペット・トリミング方法②			最新ドッググルーミングM P170～177			
第27回	短脚テリアのトリミング (5)	ノーフォークス・テリア スタンダード解説 ノーフォークス・テリア ペット・トリミング方法 ①			最新犬種図鑑 P. 87 最新ドッググルーミングM P290～297			
第28回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習			試験範囲説明			
第29回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験			単位認定試験			
第30回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S) : 100点～90点
小テスト	◎	○	○				10	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与			実務経験紹介	https://www.vic-kvoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			

科目名	訓練	単位数	4	科目コード																																																																																																																													
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期																																																																																																																												
区分	選択必修(トレーナー分野)	開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有																																																																																																																												
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ドッグ・スポーツを通して、犬とのコミュニケーション力向上を行う。 社会で自立するための技術・知識の向上と社会貢献ができる。																																																																																																																																
授業の一般目標	各パートナー犬との信頼関係を築く																																																																																																																																
受講条件	特になし																																																																																																																																
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布																																																																																																																																
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 ドッグ・スポーツを通して、人と犬との信頼関係やコミュニケーションの必要性などの説明ができる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 ドッグ・スポーツを通して、犬を健康的に管理できる基本的知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 日常飼養上で必要な犬とのコミュニケーション力を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 ドッグ・スポーツを通して、人と共存する中で、スムーズな適正な飼養管理を行えることができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																																																																																																																
授業計画(全体)	ドッグ・スポーツ(アジリティ、ディスク・フライング、ドッグ・ダンス等)の基本的な知識・技術を修得し、人と犬とのコミュニケーション力を高め、より良い関係を築くことができる。 イベント等の機会には、社会貢献できる力を付ける。																																																																																																																																
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主 題</th> <th>授 業 内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>授業開始について、注意事項の確認 ドッグ・スポーツ(1)</td> <td>授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について ドッグ・スポーツの種類、訓練競技会、フライボールについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ドッグ・スポーツ(2) ドッグ・ダンス(1)</td> <td>ドッグ・スポーツを安全に楽しむために ドッグ・ダンス①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ドッグ・スポーツ(3) ドッグ・ダンス(2)</td> <td>トレーニング前の準備① ドッグ・ダンス②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ドッグ・スポーツ(4)</td> <td>トレーニング前の準備② ドッグ・ダンス③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ドッグ・スポーツ(5)</td> <td>トレーニングの進め方、アフター・ケア ドッグ・ダンス④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ドッグ・スポーツ(6)</td> <td>ドッグ・ダンス⑤ ディスク・ドッグ①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ドッグ・スポーツ(7) 犬を理解する(1)</td> <td>犬の脳について ドッグ・ダンス⑥ ディスク・ドッグ②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ドッグ・スポーツ(8) 犬を理解する(2)</td> <td>犬の記憶について ドッグ・ダンス⑦ ディスク・ドッグ③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>ドッグ・スポーツ(9) 犬を理解する(3)</td> <td>正と負、強化と弱化について ドッグ・ダンス⑧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>ドッグ・スポーツ(10) 犬を理解する(4)</td> <td>拮抗条件付け、系統的脱感作について ドッグ・ダンス⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ドッグ・スポーツ(11) 犬を理解する(5)</td> <td>犬の音に対する反応について ドッグ・ダンス⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ドッグ・スポーツ(12)</td> <td>DVD観賞(前編) ドッグ・ダンス⑪</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>ドッグ・スポーツ(13)</td> <td>DVD観賞(後編) ドッグ・ダンス⑫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>小テスト(1) ドッグ・スポーツ(14)</td> <td>小テスト実施 ドッグ・ダンス実技試験</td> <td>確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>復習 ドッグ・スポーツ(15)</td> <td>小テストの振り返り クリック・トレーニング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>ドッグ・スポーツ(16) 犬を理解する(6)</td> <td>犬の欲求について シェパード①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>ドッグ・スポーツ(17) 犬を理解する(7)</td> <td>犬が動物であることを理解する シェパード②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>ドッグ・スポーツ(18) 犬を理解する(8)</td> <td>犬種別の能力について① シェパード③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>ドッグ・スポーツ(19) 犬を理解する(9)</td> <td>犬種別の能力について② シェパード④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>ドッグ・スポーツ(20) 犬を理解する(10)</td> <td>感覚情報が脳に伝わる優先順位 シェパード⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>ドッグ・スポーツ(21) 犬を理解する(11)</td> <td>実用テクニック シェパード⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>小テスト(2) ドッグ・スポーツ(22)</td> <td>小テスト実施 シェパード⑦</td> <td>確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>ドッグ・スポーツ(23)</td> <td>シェパード⑧ アジリティ①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>ドッグ・スポーツ(24)</td> <td>小テストの振り返り シェパード⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>ドッグ・スポーツ(25)</td> <td>シェパード⑩ アジリティ②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>ドッグ・スポーツ(26)</td> <td>シェパード⑪ アジリティ③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>ドッグ・スポーツ(27)</td> <td>シェパード実技試験 アジリティ④</td> <td>確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>ドッグ・スポーツのまとめ(1)</td> <td>総合練習①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第29回</td> <td>ドッグ・スポーツのまとめ(2)</td> <td>総合練習②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>ドッグ・スポーツのまとめ(3) 授業を終えて</td> <td>総合練習③</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					回	主 題	授 業 内 容	備 考	第1回	授業開始について、注意事項の確認 ドッグ・スポーツ(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について ドッグ・スポーツの種類、訓練競技会、フライボールについて		第2回	ドッグ・スポーツ(2) ドッグ・ダンス(1)	ドッグ・スポーツを安全に楽しむために ドッグ・ダンス①		第3回	ドッグ・スポーツ(3) ドッグ・ダンス(2)	トレーニング前の準備① ドッグ・ダンス②		第4回	ドッグ・スポーツ(4)	トレーニング前の準備② ドッグ・ダンス③		第5回	ドッグ・スポーツ(5)	トレーニングの進め方、アフター・ケア ドッグ・ダンス④		第6回	ドッグ・スポーツ(6)	ドッグ・ダンス⑤ ディスク・ドッグ①		第7回	ドッグ・スポーツ(7) 犬を理解する(1)	犬の脳について ドッグ・ダンス⑥ ディスク・ドッグ②		第8回	ドッグ・スポーツ(8) 犬を理解する(2)	犬の記憶について ドッグ・ダンス⑦ ディスク・ドッグ③		第9回	ドッグ・スポーツ(9) 犬を理解する(3)	正と負、強化と弱化について ドッグ・ダンス⑧		第10回	ドッグ・スポーツ(10) 犬を理解する(4)	拮抗条件付け、系統的脱感作について ドッグ・ダンス⑨		第11回	ドッグ・スポーツ(11) 犬を理解する(5)	犬の音に対する反応について ドッグ・ダンス⑩		第12回	ドッグ・スポーツ(12)	DVD観賞(前編) ドッグ・ダンス⑪		第13回	ドッグ・スポーツ(13)	DVD観賞(後編) ドッグ・ダンス⑫		第14回	小テスト(1) ドッグ・スポーツ(14)	小テスト実施 ドッグ・ダンス実技試験	確認テスト	第15回	復習 ドッグ・スポーツ(15)	小テストの振り返り クリック・トレーニング		第16回	ドッグ・スポーツ(16) 犬を理解する(6)	犬の欲求について シェパード①		第17回	ドッグ・スポーツ(17) 犬を理解する(7)	犬が動物であることを理解する シェパード②		第18回	ドッグ・スポーツ(18) 犬を理解する(8)	犬種別の能力について① シェパード③		第19回	ドッグ・スポーツ(19) 犬を理解する(9)	犬種別の能力について② シェパード④		第20回	ドッグ・スポーツ(20) 犬を理解する(10)	感覚情報が脳に伝わる優先順位 シェパード⑤		第21回	ドッグ・スポーツ(21) 犬を理解する(11)	実用テクニック シェパード⑥		第22回	小テスト(2) ドッグ・スポーツ(22)	小テスト実施 シェパード⑦	確認テスト	第23回	ドッグ・スポーツ(23)	シェパード⑧ アジリティ①		第24回	ドッグ・スポーツ(24)	小テストの振り返り シェパード⑨		第25回	ドッグ・スポーツ(25)	シェパード⑩ アジリティ②		第26回	ドッグ・スポーツ(26)	シェパード⑪ アジリティ③		第27回	ドッグ・スポーツ(27)	シェパード実技試験 アジリティ④	確認テスト	第28回	ドッグ・スポーツのまとめ(1)	総合練習①		第29回	ドッグ・スポーツのまとめ(2)	総合練習②		第30回	ドッグ・スポーツのまとめ(3) 授業を終えて	総合練習③	
回	主 題	授 業 内 容	備 考																																																																																																																														
第1回	授業開始について、注意事項の確認 ドッグ・スポーツ(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について ドッグ・スポーツの種類、訓練競技会、フライボールについて																																																																																																																															
第2回	ドッグ・スポーツ(2) ドッグ・ダンス(1)	ドッグ・スポーツを安全に楽しむために ドッグ・ダンス①																																																																																																																															
第3回	ドッグ・スポーツ(3) ドッグ・ダンス(2)	トレーニング前の準備① ドッグ・ダンス②																																																																																																																															
第4回	ドッグ・スポーツ(4)	トレーニング前の準備② ドッグ・ダンス③																																																																																																																															
第5回	ドッグ・スポーツ(5)	トレーニングの進め方、アフター・ケア ドッグ・ダンス④																																																																																																																															
第6回	ドッグ・スポーツ(6)	ドッグ・ダンス⑤ ディスク・ドッグ①																																																																																																																															
第7回	ドッグ・スポーツ(7) 犬を理解する(1)	犬の脳について ドッグ・ダンス⑥ ディスク・ドッグ②																																																																																																																															
第8回	ドッグ・スポーツ(8) 犬を理解する(2)	犬の記憶について ドッグ・ダンス⑦ ディスク・ドッグ③																																																																																																																															
第9回	ドッグ・スポーツ(9) 犬を理解する(3)	正と負、強化と弱化について ドッグ・ダンス⑧																																																																																																																															
第10回	ドッグ・スポーツ(10) 犬を理解する(4)	拮抗条件付け、系統的脱感作について ドッグ・ダンス⑨																																																																																																																															
第11回	ドッグ・スポーツ(11) 犬を理解する(5)	犬の音に対する反応について ドッグ・ダンス⑩																																																																																																																															
第12回	ドッグ・スポーツ(12)	DVD観賞(前編) ドッグ・ダンス⑪																																																																																																																															
第13回	ドッグ・スポーツ(13)	DVD観賞(後編) ドッグ・ダンス⑫																																																																																																																															
第14回	小テスト(1) ドッグ・スポーツ(14)	小テスト実施 ドッグ・ダンス実技試験	確認テスト																																																																																																																														
第15回	復習 ドッグ・スポーツ(15)	小テストの振り返り クリック・トレーニング																																																																																																																															
第16回	ドッグ・スポーツ(16) 犬を理解する(6)	犬の欲求について シェパード①																																																																																																																															
第17回	ドッグ・スポーツ(17) 犬を理解する(7)	犬が動物であることを理解する シェパード②																																																																																																																															
第18回	ドッグ・スポーツ(18) 犬を理解する(8)	犬種別の能力について① シェパード③																																																																																																																															
第19回	ドッグ・スポーツ(19) 犬を理解する(9)	犬種別の能力について② シェパード④																																																																																																																															
第20回	ドッグ・スポーツ(20) 犬を理解する(10)	感覚情報が脳に伝わる優先順位 シェパード⑤																																																																																																																															
第21回	ドッグ・スポーツ(21) 犬を理解する(11)	実用テクニック シェパード⑥																																																																																																																															
第22回	小テスト(2) ドッグ・スポーツ(22)	小テスト実施 シェパード⑦	確認テスト																																																																																																																														
第23回	ドッグ・スポーツ(23)	シェパード⑧ アジリティ①																																																																																																																															
第24回	ドッグ・スポーツ(24)	小テストの振り返り シェパード⑨																																																																																																																															
第25回	ドッグ・スポーツ(25)	シェパード⑩ アジリティ②																																																																																																																															
第26回	ドッグ・スポーツ(26)	シェパード⑪ アジリティ③																																																																																																																															
第27回	ドッグ・スポーツ(27)	シェパード実技試験 アジリティ④	確認テスト																																																																																																																														
第28回	ドッグ・スポーツのまとめ(1)	総合練習①																																																																																																																															
第29回	ドッグ・スポーツのまとめ(2)	総合練習②																																																																																																																															
第30回	ドッグ・スポーツのまとめ(3) 授業を終えて	総合練習③																																																																																																																															
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点:演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。																																																																																																																																
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																																																																																																									
定期試験							—	秀 (S): 100点~90点																																																																																																																									
小テスト		○		◎	◎		40	優 (A): 89点~80点																																																																																																																									
宿題授業外レポート	○	○					20	良 (B): 79点~70点																																																																																																																									
授業態度	○	○	○	◎	◎		10	可 (D): 69点~60点																																																																																																																									
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下																																																																																																																									
演習		○		◎	◎		20																																																																																																																										
出席			○				10																																																																																																																										
担当教員	小泉 秀明		実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/																																																																																																																													

科目名	家庭犬訓練Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	2年次からの専門的なコース授業開始に向けて、犬種を熟知し自分に相応するパートナーモデル犬種を見極める。 訓練とはどんなことか、どのように行うのかを覚える 1頭以上のモデル犬に訓練を入れ、JKC競技会に出場する。 犬を飼養する意義を考え、自分に合ったパートナーモデル犬を決定し、トレーナーとの絆を深めながら基本的なコントロール方法を覚え身に付ける。							
授業の一般目標	2年次からの授業をスムーズに移行できるパートナーを選び、必要な訓練の実践ができる。 JKC訓練競技会出場と、CD1Sクラスの訓練犬試験に合格する。 犬を飼養する人へ適切なアドバイスができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に家庭犬に関する必要なしつけの必要性や服従方法等の概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	主に家庭犬が健康的に管理できる基本的なしつけや服従方法の知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	主に家庭犬の日常飼養上で必要な基本的なしつけ学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主に家庭犬と人が共存する中で、スムーズな適正な飼養管理が行え、関係性を保つことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	家庭犬を飼養管理していく上で必要な基本的なしつけに関する知識を修得し、飼い主とその個体の信頼関係を築くサポートを行い、快適な共存が保てるようにできる。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について リードの扱い方(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について リードの使い方、テンションのかけ方練習						
第2回	なぜ犬を飼うのか(1) リードの扱い方(2)	犬を飼うための準備(自分自身を振り返る①) リードワーク(張り方・緩め方)						
第3回	なぜ犬を飼うのか(2) 呼び出し(1)	本当に犬を飼えるのか(自分自身を振り返る②) 呼び戻し(リード使用)						
第4回	なぜ犬を飼うのか(3) 呼び出し(2)	犬を飼うための準備(犬を見極める)① 呼び戻し(ハンド・タッチ、リード無し)						
第5回	なぜ犬を飼うのか(4) 呼び出し(3)	犬を飼うための準備(犬を見極める)② 呼び戻し(難易度を上げる)						
第6回	成犬を家に迎え入れる キューについて(1)	成犬を家に迎え入れる準備 声・視・体符の使い方						
第7回	子犬を飼う前に(1) キューについて(2)	子犬選びと飼う時期について Yes・Noの使い方						
第8回	子犬を飼う前に(2) 校外学習 マテ(1)	子犬の入手先について 運動 マテの強化①						
第9回	子犬を飼う前に(3) マテ(2)	子犬の発達診断 マテの強化②						
第10回	子犬を飼う前に(4) クリック・トレーニング(1)	家庭犬の気質テストについて クリック・トレーニング(コンディショニング)						
第11回	子犬の学習の期限(1) クリック・トレーニング(2)	子犬を家に迎え入れる クリック・トレーニング(自発行動を引き出す)						
第12回	子犬の学習の期限(2) クリック・トレーニング(3)	人への社会化 クリック・トレーニング(ターゲット)						
第13回	パピーテスト	パピーテストを実際に行う						
第14回	小テスト 訓練競技会について(1)	小テスト実施 訓練競技会出場における心構え				確認テスト		
第15回	授業を終えて 訓練競技会について(2)	小テストの振り返り 訓練競技会における指導手と犬の関係						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							—	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○		◎	◎		40	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○						20	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		10	可 (D):69点~60点
発表・作品							—	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	小泉 秀明			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			

科目名	家庭犬訓練Ⅲ		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(トレーナー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬を良く知ること、専門的なしつけ学を学ぶ(家庭犬訓練の学科と実技内容を知る) 犬のトレーニングについての考え方・接し方・実技を学び、覚える。							
授業の一般目標	ゲームや遊びを実技に取り入れ、犬が楽しみながら飽きずにトレーニングする方法を覚え、考える力を身に付ける。 問題行動のある場合は、改善策を講ずることができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 主に家庭犬に関する必要なしつけの必要性や問題行動の概要説明ができる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 主に家庭犬が健康的に管理できる専門的なしつけの知識を身に付け、問題行動の改善策を顧客等の説明時に活用することができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 主に家庭犬の日常飼養上で必要な専門的なしつけ学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 主に家庭犬と人が共存する中で、スムーズな適正な飼養管理の上、問題行動の改善が行え関係性を保つことができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点							
授業計画(全体)	家庭犬を飼養管理していく上で必要な専門的なしつけに関する知識を修得し、飼い主とその個体が快適な共存が保てるようにできる。 問題行動がある場合は、改善策を講ずることができる。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	はじめに 授業開始について	自己紹介 授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、注意事項について						
第2回	犬を知る	オオカミとイヌの違いを覚える						
第3回	犬種の選択	人為選択と自然選択						
第4回	犬個体について	イヌによって違うことと同じこと						
第5回	犬の行動	イヌの考えと行動						
第6回	トレーニングのポイント必要性	イヌを作るってどういうこと?						
第7回	ゲーム(1)	YES・NOゲーム						
第8回	トレーニングのポイント	ほめることと叱ること、かまうことと無視すること						
第9回	考え方の違い	イヌの考えとヒトの考え						
第10回	犬とオーナーの思考差	イヌの考え・飼い主の考え						
第11回	ゲーム(2)	トレーニング・スケジュール①						
第12回	ゲーム(3)	トレーニング・スケジュール②						
第13回	態度について	ヒトと接する時の態度						
第14回	まとめ(1)と前期の復習	前期のまとめと復習				確認テスト		
第15回	理解度確認	なぜ、うまくいく?				確認テスト		
第16回	コマンドとタイミング	コマンドとは、何か? コマンドのタイミング						
第17回	インターバル・トレーニング	トレーニング						
第18回	冷静に考えること	トレーニング中における注意点						
第19回	どれなら信じる?	トレーニング中の模索法						
第20回	環境による幸福度	イヌにとって、都会・校外・田舎のどれが幸せか?						
第21回	恐怖について	恐怖性と恐怖心について						
第22回	コントロール方法	パーク・コントロールについて						
第23回	攻撃性(1)	様々な攻撃性について①						
第24回	攻撃性(2)	様々な攻撃性について②						
第25回	パーソナル・スペース	パーソナル・スペースについて						
第26回	トリックについて	様々なトリックについて						
第27回	アイテムについて	様々なアイテムについて						
第28回	まとめ(2)	一年間の総まとめ						
第29回	振り返りと試験	振り返りと試験実施				実技確認テスト		
第30回	試験の解説	試験の解説				実技確認テスト		
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	新江 健史			実務経験紹介				

科目名	パピーケアーⅡ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年次の履修内容より深く専門的に、犬の生後1ヵ月から1歳になるまでのしつけ・栄養・健康・飼育上の注意点等を覚える。							
授業の一般目標	総合的視野から犬の成長に必要な知識を深く覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に生後12ヵ月未満の子犬に関する必要な専門的な訓練(しつけ)の必要性や問題点の概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	生後12ヵ月未満の子犬を主体に健康的に管理できる専門的知識を身に付け、問題点についての改善策を顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	生後12ヵ月未満の子犬を主体に、日常飼養上で必要な専門的訓練(しつけ)学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	生後12ヵ月未満の子犬を主体に人と共存する中で、スムーズな適正な飼養管理を行えることができ、問題行動の改善ができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
1年次の基本的な知識・技術をベースに、より深く専門的な知識・技術を修得し、生後12ヵ月未満の子犬を迎え入れる時期に必要な訓練(しつけ)知識を身につける。 飼い主的確な助言ができ、自らも実践することができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業について ケアー(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 仔犬との接し方・ケアーの仕方						
第2回	ケアー(2)	夏と冬のケアーの違い						
第3回	仔犬	仔犬を迎える準備						
第4回	実技(1)	コマンドの確認(アイコンタクト)						
第5回	実技(2)	コマンドの確認(マズルコントロール・シャドーイング)						
第6回	実技(3)	体チェック方法、社会化見学						
第7回	幼年期(1)	リード・カラーの使い方						
第8回	幼年期(2)	散歩の方法						
第9回	実技(4)	実習トレーニング導入						
第10回	実技(5)	オビディエンス						
第11回	実技(6)	オペラントの条件づけ						
第12回	実技(7)	おいで・まで						
第13回	実技(8)	ふせ・ヒール						
第14回	復習	コマンドの的確な出し方						
第15回	シミュレーション(1)	パピースクールについて						
第16回	シミュレーション(2)	しつけ教室						
第17回	シミュレーション(3)	ペットアドバイザー						
第18回	シミュレーション(4)	役割を変えて体験授業						
第19回	行動(1)	やめてほしいくせ						
第20回	行動(2)	トイレ・グループ別アイコンタクト						
第21回	行動(3)	犬を教えるフォーメーション				課外授業		
第22回	シミュレーション(5)	ドッグトレーナー						
第23回	シミュレーション(6)	アシスタント						
第24回	シミュレーション(7)	オーナー						
第25回	ケアー(3)	冬の過ごし方						
第26回	行動(4)	リーダーシップ						
第27回	行動(5)	犬の育児計画						
第28回	行動(6)	待てをさせよう						
第29回	実技(9)	犬に考えさせる				単位認定試験		
第30回	実技(10)	発想を持ったしつけの仕方				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	伊勢村 恵津子			実務経験紹介				

科目名	ハンドリング		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ハンドリングの知識と技術を覚える。 犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せるハンドラーになる。							
授業の一般目標	JKC ハンドラーC級ライセンスに合格する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種について深く理解し、ハンドリングの必要性の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各犬種が健康的に管理できる基本的なハンドリング知識・技術を身に付け、犬のコントロール方法を顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	各犬種の特徴は理解し、日常飼養上で必要な専門的なハンドリング学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	各犬種の相違を把握し、犬と人が共存する中で、スムーズな適正な飼養管理の上、正しいコミュニケーションが行え関係性を保つことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
専門的なハンドリングの知識と技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活の中で良好なコミュニケーションが図れる。 必要に応じて顧客に的確なアドバイス・指導ができる。 JKC・ハンドラーC級ライセンス資格を取得。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について ハンドリングの歴史(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ハンドリングとドッグショーの歴史①						
第2回	ハンドリングの歴史(2)	ハンドリングとドッグショーの歴史②						
第3回	ハンドリングのシステム(1)	ショーシステムについて						
第4回	ハンドリングのシステム(2)	ショーシステムをDVDで観る						
第5回	審査方法	審査員は何を見ようとしているのかを知る						
第6回	手順方法	スタックの手順方法を覚える						
第7回	スタックとは何か	リードのかけ方・持ち方を覚える						
第8回	歩行方法	歩行パターンを身につける						
第9回	リードワークの仕方	リードワークをDVDを観て覚える						
第10回	歩行練習(1)	実際の歩行パターン①を覚える(実技)						
第11回	歩行練習(2)	実際の歩行パターン②を覚える(実技)						
第12回	歩行練習(3)	実際の歩行パターン③を覚える(実技)						
第13回	マナー・ルールについて(1)	ドッグショーでのマナーとルールを覚える						
第14回	授業の振り返り	試験対策・振り返り				単位認定試験		
第15回	試験	試験(実技)				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	山中 美佐穂			実務経験紹介				

科目名	小動物概論Ⅱ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物全般について(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・無脊椎動物)、野外学習 小動物全般について広範囲の専門的な知識を覚える							
授業の一般目標	動物全般に対する専門知識を幅広く身につける							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬種・猫種以外のペットショップで扱われている小動物・鳥類・爬虫類・両生類(珍しい種類を含む)についての特徴・性格・被毛・毛色・体部特徴・サイズ・雌雄判別・飼育方法等の概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている小動物(小動物概論Ⅰで履修したもの以外)についての専門的な知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている小動物(小動物概論Ⅰで履修したもの以外)の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
専門的な知識を修得し、ショップで扱われている小動物(珍しい小動物を含む)について、正しい飼養管理・適正な環境作りができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 動物学(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方・分類						
第2回	動物学(2)	生態						
第3回	動物学(3)	分布、野外実習①						
第4回	哺乳類(1)	単孔目、双門歯目、長鼻目、海牛目、被甲目、有毛目						
第5回	哺乳類(2)	霊長目、ウサギ目						
第6回	哺乳類(3)	げっ歯目、トガリネズミ目						
第7回	哺乳類(4)	鯨偶蹄目、校外授業						
第8回	哺乳類(5)	食肉目、奇蹄目、翼手目						
第9回	鳥類(1)	鳴き声、走鳥目						
第10回	鳥類(2)	カモ目、キジ目						
第11回	鳥類(3)	インコ目、野外実習②						
第12回	鳥類(4)	スズメ目						
第13回	爬虫類(1)	カメ目						
第14回	爬虫類(2)	トカゲ目						
第15回	爬虫類(3)	ヘビ垂目						
第16回	爬虫類(4)	ワニ目						
第17回	両生類(1)	特徴						
第18回	両生類(2)	有尾目						
第19回	両生類(3)	無尾目①						
第20回	両生類(4)	無尾目②、野外実習③						
第21回	魚類(1)	無顎類、軟骨魚類						
第22回	魚類(2)	原始的な魚						
第23回	魚類(3)	条鰭類						
第24回	魚類(4)	観賞魚、野外実習④						
第25回	無脊椎動物(1)	分類						
第26回	無脊椎動物(2)	昆虫						
第27回	無脊椎動物(3)	その他						
第28回	まとめ、試験範囲の復習	まとめと野外実習⑤				試験範囲説明		
第29回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第30回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	田邊 真吾			実務経験紹介				

科目名	水生生物Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる。							
授業の一般目標	2年次に1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げるための、水草の定着方法を学び、流木・アクセサリーを使用してのアレンジができるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	アクアリウムに関する基本的なことが説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている魚類について、水質管理方法や飼養方法の専門的な知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている魚類の専門的な知識を身につけ、各アクアリウム設備に関心の広げ、管理ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アクアリウムの実践に向けての専門的な知識を覚え、各魚類の飼養方法を理解の上、アクアリウムの組み立てからレイアウト、管理が一人でできる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について アクアリウムの基本	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 水槽の種類、ガラス水槽とアクリル水槽 短所と長所						
第2回	レイアウトの構成を考える	アクアリウムとアクアテラリウム レイアウト						
第3回	水草について(1)	水草の種類						
第4回	熱帯魚の性質・種類(1) 水槽レイアウト	熱帯魚の種類 水槽レイアウト						
第5回	熱帯魚の性質・種類(2) 水槽メンテナンス	熱帯魚の種類 水槽メンテナンス						
第6回	混泳ができる魚類について	異種魚の共存について						
第7回	ろ過器について 実践(実習)(1)	フィルター・装置の説明 ろ過器の種類・構造・方式 水槽メンテナンス						
第8回	水草について(2)	光合成について、水草を定着させる方法						
第9回	水草について(3) 水槽メンテナンス	水草のレイアウト 水槽メンテナンス						
第10回	実践(実習)(2)	水槽のレイアウトを構想する						
第11回	給餌について 水槽管理について 水槽メンテナンス	CB個体とWC個体について 水槽管理の応用 水槽メンテナンス						
第12回	1年生に学んだことのまとめ	1年間のまとめ						
第13回	まとめ、試験範囲の復習	まとめと野外観察(校外授業)②				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点70%、提出物&授業態度点・作品点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート			○				—	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品		○			○		10	不可 (E):59点以下
演習			○		◎		10	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

科目名	水生生物Ⅲ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの管理・実践 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。							
授業の一般目標	1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げる。 水草の定着から、流木・アクセサリを使用しているアレンジができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	アクアリウムに関する専門的なことが説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている魚類について、水質管理方法や飼養方法・設置方法等の専門的な知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている魚類の専門的な知識を身につけ、各魚類に適したアクアリウム設備に関心の広げ、レイアウト・日常に管理ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アクアリウムの実践に向けての専門的知識を覚え、各魚類の飼養方法を理解の上、アクアリウムの組み立てからレイアウト、日常の管理が一人でできる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について アクアリウムの応用	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明 実習の進め方、前年水槽の清掃 水槽の種類、ガラス水槽とアクリル水槽 短所と長所						
第2回	レイアウトの全体構成・配置	アクアリウムとアクアテラリウム、レイアウト						
第3回	水草の取り扱い アクアセラピーとは	取り扱う水草の種類、前景・中景・後景、アクアセラピーについて						
第4回	熱帯魚の選択 混泳を考える	熱帯魚の組み合わせ						
第5回	実践(実習)(1)	水槽の組み立て①						
第6回	実践(実習)(2)	水槽の組み立て②						
第7回	実践(実習)(3)	フィルター・装置の設置						
第8回	買い付け	各水槽のレイアウトを考え自分達のイメージにあった熱帯魚と水草を購入する						
第9回	実践(実習)(4)	光合成と二酸化炭素、発酵式二酸化炭素について、水草のレイアウト						
第10回	実践(実習)(5)	水草の植え付け、ウイローモスの活着						
第11回	実践(実習)(6)	全体での水槽のレイアウト						
第12回	実践(実習)(7)	水槽の全体のイメージから、より近づける為にトリミングを行う						
第13回	実践(実習)(8)	水槽のメンテナンス①、食用魚について						
第14回	実践(実習)(9)	全体での水槽のレイアウト						
第15回	復習	熱帯魚と水草の名前の復習						
第16回	実践(実習)(10)	水槽のメンテナンス②、大型魚類について						
第17回	レイアウトの構成(1)	自分の水槽の始めからの立ち上げ						
第18回	レイアウトの構成(2)	レイアウト決めと水槽の組み立て準備						
第19回	実践(実習)(11)	水の管理、アクセサリ、流木の管理とレイアウト						
第20回	校外学習	アクアリウム・ショップ見学						
第21回	買い付け	各水槽のレイアウトを考え自分達のイメージにあった熱帯魚と水草を購入する						
第22回	実践(実習)(12)	全体での水槽のレイアウト①、魚の病気について						
第23回	実践(実習)(13)	全体での水槽のレイアウト②、魚の病気(治療と病魚薬)						
第24回	実践(実習)(14)	水槽のメンテナンス③						
第25回	実践(実習)(15)	水槽のメンテナンス④						
第26回	実践(実習)(16)	作品の仕上げ①						
第27回	実践(実習)(17)	作品の仕上げ②						
第28回	実践(実習)(18)	作品の維持と管理①						
第29回	実践(実習)(19)	作品の維持と管理②				単位認定試験		
第30回	実践(実習)【添削】	作品のまとめ・総仕上げ (自分の作品の展示紹介)				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(作品点・演習点)60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品	○		○		◎		40	不可 (E):59点以下
演習	○		○		◎		20	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史		実務経験紹介		https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

科目名	愛玩動物飼養管理学特論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物飼養管理士試験【1級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士1級の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	愛玩動物飼養管理士1級に合格する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	愛玩動物飼養管理士【1級】教本 第1・2巻							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の愛護及び管理に関する法律や動物の行動社会・動物の疾病について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 愛玩動物飼養管理士として、顧客に対して求められている問題点等のアドバイス・説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 基本的知識を身につけ、より専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 動物の愛護及び管理に関する法律で対象となる動物についての正しい飼養環境作り、適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
専門的な知識を身に付け、動物社会や遺伝・疾病を理解し、上級である愛玩動物飼養管理士1級合格を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 愛玩動物飼養管理学特論 (1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 人と動物の関係学Ⅱ						
第2回	愛玩動物飼養管理学特論 (2)	動物関係法令Ⅱ ①						
第3回	愛玩動物飼養管理学特論 (3)	動物関係法令Ⅱ ②						
第4回	愛玩動物飼養管理学特論 (4)	動物の行動と社会						
第5回	愛玩動物飼養管理学特論 (5)	犬と猫の栄養学						
第6回	愛玩動物飼養管理学特論 (6)	動物の遺伝と繁殖生理						
第7回	愛玩動物飼養管理学特論 (7)	動物の疾病とその予防 ①						
第8回	愛玩動物飼養管理学特論 (8)	動物の疾病とその予防 ②						
第9回	愛玩動物飼養管理学特論 (9)	動物の疾病とその予防 ③						
第10回	愛玩動物飼養管理学特論 (10)	動物の飼養管理と公衆衛生						
第11回	愛玩動物飼養管理学特論 (11)	自然と人間						
第12回	振り返り授業	確認テスト						
第13回	模擬試験 (1)	愛玩動物飼養管理士1級 模擬試験				模擬試験		
第14回	模擬試験 (2)	愛玩動物飼養管理士1級 模擬試験				模擬試験		
第15回	期末試験 試験問題の解答、解説	期末試験 試験問題の答え合わせと解説				単位認定試験 試験解説		
成績評価方法								
各項目では、理解力テストを行う。 単位認定：総合成績60点、出席率80%以上 理解力テスト点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S) : 100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介				

科目名	小動物看護学		単位数	1	科目コード				
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護師から、ペットアドバイザーに知っておいてほしい小動物の疾病、それを防ぐための飼育方法等について学ぶ。 ペットショップで取り扱う代表的な小動物の生態・習性、飼養・保定方法、代表的な疾病を各小動物ごとに説明できる。 ペットショップでお客様に対して、各動物の起こりやすい病気を踏まえて紹介することができる。								
授業の一般目標	ウサギの生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。 ハムスターの生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。 フェレットの生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。 モルモットの生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。 ハリネズミの生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。 チンチラの生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。 鳥の種類や生態・習性、飼養方法、代表的な疾病を説明でき、優しく持つ(保定する)ことができる。								
受講条件	特になし								
事前学習について (テキスト・参考書等)	日東書院出版「小動物の飼い方図鑑」河野 朝城監修								
授業の到達目標									
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各小動物についての基礎的な取り扱いができ、関する疾病知識や予防のための適正な飼養方法が説明ができる。								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各小動物の適切な飼養方法下で起こりうる病気について、また予防方法や応急処置等を顧客に説明することができる。								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	小動物看護の関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
<input type="checkbox"/> 態度の観点	小動物の日常飼養管理下での問題点・改善点・発見点を見つけることができる。								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
基本的な小動物看護の知識を修得し、現場で正しい取り扱いができる。 日常の健康状態を把握した上で、何ら異常な所見があった場合の観察力を養い、病気に対する早期発見ができるようになる。 病気が蔓延しない対策を講ずることができる。									
授業計画(授業単位)									
回	主 題	授 業 内 容				備 考			
第1回	授業開始について 小動物(キリツクアニマル)とは? <1年次の復習> 食性とは?	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 小動物(エキゾチックアニマル)とはどのような動物をいうか説明できる 動物食性と植物食性の違いを説明できる。 「生物濃縮」が説明でき、具体例を1つ挙げられる				この授業の流れについての説明			
第2回	ウサギってどんな動物? ウサギの正しい飼い方	ウサギの形態的特徴・生態について説明できる ウサギを飼うにあたって、必要な道具やケージなど、正しいとされる飼育方法について説明できる							
第3回	ウサギの代表的な疾病 ウサギの保定 ウサギをお勧めする。	ウサギの代表的な疾病を3つ以上、説明ができ、ウサギの持ち方や保定ができる 学んできた「ウサギ」についてをまとめ、3分で「ウサギ」の飼育時に気を付けることを説明できる							
第4回	ハムスターってどんな動物? ハムスターの正しい飼い方	ハムスターの形態的特徴・生態について説明できる ハムスターを飼うにあたって、必要な道具やケージなど、正しいとされる飼育方法について説明できる							
第5回	ハムスターの代表的な疾病 ハムスターの保定 ハムスターをお勧めする。	ハムスターの代表的な疾病を3つ以上、説明ができ、ハムスターの持ち方や保定ができる 学んできた「ハムスター」についてをまとめ、3分で「ハムスター」の飼育時に気を付けることを説明できる							
第6回	モルモットってどんな動物? モルモットの正しい飼い方	モルモットの形態的特徴・生態について説明でき、必要な道具など、正しいとされる飼育方法について説明できる							
第7回	モルモットの代表的な疾病 モルモットの保定 モルモットをお勧めする。	モルモットの代表的な疾病を3つ以上、説明ができ、モルモットの持ち方や保定ができる 学んできた「モルモット」についてをまとめ、3分で「モルモット」の飼育時に気を付けることを説明できる							
第8回	チンチラってどんな動物? チンチラの正しい飼い方	チンチラの形態的特徴・生態について説明でき、必要な道具など、正しいとされる飼育方法について説明できる							
第9回	チンチラの代表的な疾病 チンチラの保定 チンチラをお勧めする。	チンチラの代表的な疾病を3つ以上、説明ができ、チンチラの持ち方や保定ができる 学んできた「チンチラ」についてをまとめ、3分で「チンチラ」の飼育時に気を付けることを説明できる							
第10回	フェレットってどんな動物? フェレットの正しい飼い方	フェレットの形態的特徴・生態について説明でき、必要な道具など、正しいとされる飼育方法について説明できる							
第11回	フェレットの代表的な疾病 フェレットの保定 フェレットをお勧めする。	フェレットの代表的な疾病を3つ以上、説明ができ、フェレットの持ち方や保定ができる 学んできた「フェレット」についてをまとめ、3分で「フェレット」の飼育時に気を付けることを説明できる							
第12回	ハリネズミってどんな動物? ハリネズミの正しい飼い方	ハリネズミの形態的特徴・生態について説明でき、必要な道具など、正しいとされる飼育方法について説明できる							
第13回	ハリネズミの代表的な疾病 ハリネズミの保定 ハリネズミをお勧めする。 試験範囲復習	ハリネズミの代表的な疾病を3つ以上、説明ができ、モルモットの持ち方や保定ができる 学んできた「ハリネズミ」についてをまとめ、3分で「ハリネズミ」の飼育時に気を付けることを説明できる 試験対策のポイント、復習				試験範囲説明			
第14回	後期テスト	30分後期まとめ、5分の休憩後、50分テスト、5分で回収				単位認定試験			
第15回	振り返り	後期テストの答え合わせ、1年間の総まとめ				試験解説			
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。									
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト		○		◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								-	良 (B):79点~70点
授業態度				○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品								-	不可 (E):59点以下
演習								-	
出席				○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介					

科目名	小動物飼育学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必修(ペットアドバイザー分野)		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペットショップで取り扱われている小型動物・中型動物(哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類等)やふれあい施設で飼養されている動物の知識を深め、アドバイザーとしての領域を広める。							
授業の一般目標	ペットショップで取り扱われている小型・中型動物の飼養方法・取り扱い方、環境管理方法を理解し、正しく顧客に説明ができる。就職先に該当する小型・中型動物が飼養されている場合に、管理ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	やさしいエキゾ学							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペットショップ・ふれあい施設等で扱われている小型・中型動物を中心に、1年次で履修した内容を踏まえ、より深く飼育環境・飼育方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップ・ふれあい施設等で扱われている小型・中型動物を中心に、対象動物を飼養とする顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	一般家庭で飼養されている小動物だけでなく、ペットショップやふれあい施設で扱われている小型・中型動物に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ペットショップの顧客を想定して正しいとされる飼育方法が説明できる。							
授業計画(全体)								
ペットショップで取り扱われている小型動物・中型動物(哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類等)やふれあい施設で飼養されている動物について、適切な環境作り・飼養管理ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について ペット・ショップで扱われている哺乳類動物①	授業の必要性・概要・目標・目的についての説明・進め方 ペットショップの一日の流れについて						
第2回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物②	ウサギの生態、習性、飼育方法の説明ができる ウサギの種類を覚える						
第3回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物③	ハムスターの生態、習性、飼育方法の説明ができる						
第4回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物④	ハムスターの生態、習性、飼育方法の説明ができる ハムスターの種類を覚える						
第5回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑤	モルモットの生態、習性、飼育方法の説明ができる						
第6回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑥	モルモットの生態、習性、飼育方法の説明ができる モルモットの種類を覚える						
第7回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑦	フェレットの生態、習性、飼育方法の説明ができる						
第8回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑧	フェレットの生態、習性、飼育方法の説明ができる フェレットの種類を覚える						
第9回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑨	ハリネズミの生態、習性、飼育方法の説明ができる ハリネズミの種類を覚える						
第10回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑩	ネコの生態、習性、飼育方法の説明ができる ネコの種類を覚える						
第11回	ペット・ショップで扱われている哺乳類動物⑪	モモンガの生態、習性、飼育方法の説明ができる モモンガの種類を覚える						
第12回	ペット・ショップで扱われている鳥類	鳥類の生態、習性、飼育方法の説明ができる 鳥類の種類を覚える						
第13回	ペット・ショップで扱われている両生類・爬虫類	両生類・爬虫類の生態、習性、飼育方法の説明ができる						
第14回	後期末試験試験	単位認定試験				確認テスト		
第15回	試験振り返り	試験問題解説・振り返り						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	◎				○		10	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹 / 山極 夏希			実務経験紹介				

科目名	犬種・猫種学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各グループの犬種や代表的な猫種の専門的な知識を覚える。 各犬種・猫種の習性や特徴を細かくスタンダードを分析し、覚える。							
授業の一般目標	それぞれの犬種・猫種のスタンダードを熟知し、お客様の質問等に的確なアドバイスができるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新犬種図鑑、猫の教科書							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	市場で扱われている人気犬種・猫種について専門的な説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	市場で扱われている人気犬種・猫種について、飼育上での注意事項や罹患率の高い疾病・先天的疾患等について、顧客に詳しく説明できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	人気犬種・猫種の関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	人気である犬種・猫種の裏側に潜む飼養上の問題点に気づき、専門的な知識を修得した上で適正な飼養管理ができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
ペットショップで良く扱われている(一般飼養されている)人気犬種・猫種についての理解を深め、対象動物の飼い主へ終生飼養ができることを前提に的確に説明ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 1年次に履修した 犬種グループの復習	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 犬種標準とは何か? 第1～10グループについて				最新犬種図鑑		
第2回	犬種 第1グループ	シープ・ドッグ&キャトル・ドッグ(スイス・キャトル・ドッグを除く)グループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の販売価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第3回	犬種 第2グループ	ピンシャー&シュナウザー、モロシアン犬種 スイス・マウンテン・ドッグ&スイスカトル・ドッググループの関連犬種の細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の販売価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第4回	犬種 第3グループ	テリアグループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の販売価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第5回	犬種 第4グループ 犬種 第5グループ	ダックス・フンドグループ・スピッツ&プリミティブ・タイプグループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の販売価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第6回	犬種 第6グループ 犬種 第7グループ	セントハウンド&関連犬種グループ・ポインティング・ドッググループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の販売価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第7回	犬種 第8グループ 犬種 第10グループ	レトリバー、フラッシング・ドッグ、ウォーター・ドッググループ・サイト・ハウンドグループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第8回	犬種 第9グループ	コンパニオン&トイグループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第9回	犬種 第9グループ	コンパニオン&トイグループの細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔犬の価格・画像・飼養難易度など				最新犬種図鑑		
第10回	猫種(1)	アビシニアン、アメリカン・カール、アメリカン・ショートヘア、ベンガル等の人気猫種の細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔猫の価格・画像・飼養難易度など				猫の教科書		
第11回	猫種(2)	バーマン、ブリティッシュ・ショートヘア、ロシアンブルー、メイン・クーン等の人気猫種の細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔猫の価格・画像・飼養難易度など				猫の教科書		
第12回	猫種(3)	ノルウェー・ジャン・ふおれすと・キャット、ベルシャ、ラグドール、スコティッシュ・フォールド等の人気猫種の細かい特徴・市場流通の現状、人気ランキング上位仔猫の価格・画像・飼養難易度など				猫の教科書		
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説、1年間の総まとめ				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	動物介在福祉学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)(アドバイザー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	全日本動物専門教育協会家庭犬訓練士初級							
授業の一般目標	犬を理解しトレーニング方法を学ぶ・初級実技試験対策							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬の習性や飼育方法について理解できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬のトレーニング方法について理解し、実践できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬のトレーニング方法についての関心を広げ、資格取得につなげていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的な知識を身につけ、正しく犬を扱うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	基本的な犬の扱い・トレーニング技法を習得する。							
授業計画(全体)								
授業は座学と実技を並行して行う								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション・自己紹介	授業の進め方と参加犬の扱いの説明と注意点						
第2回	犬の歴史・犬具について	犬という動物と道具を理解する						
第3回	人のために働く犬について・犬具の使い方	作業犬とは						
第4回	犬の本能・トイレットレニング	犬の持つ能力について						
第5回	ライフステージ・ハウストレーニング	犬の発達過程を理解する						
第6回	犬を迎える(1)・甘噛み	しつけと飼い主の知識について						
第7回	犬を迎える(2)・散歩	子犬の扱いについて						
第8回	学習理論(1)・トレーニング基礎	馴化・鋭敏化						
第9回	学習理論(2)・トレーニング基礎	古典的条件付けとオペラント条件付け						
第10回	学習理論(3)・トレーニング基礎	アイコンタクト・オスワリ・フセ・ツケ・マテ・コイ						
第11回	認定テスト練習							
第12回	認定テスト練習							
第13回	認定テスト練習							
第14回	認定テスト練習					確認テスト		
第15回	ドッグトレーニングを使ってゲームをする							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品								不可 (E):59点以下
演習								
出席			○				10	
担当教員	菊川 智子			実務経験紹介				

科目名	動物介在福祉学Ⅱ		単位数	2	科目コード	
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期
区分	選択必修(トレーナー分野)(アドバイザー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	—
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬の飼育と管理・問題行動の対処法と飼い主への対応					
授業の一般目標						
受講条件	特になし					
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布					
授業の到達目標						
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬の飼育・管理の方法や問題行動への対処法について理解できる。					
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬を飼育・管理するにあたっての知識を習得し、飼い主への対応方法について理解し、実践できる。					
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬のトレーニング方法についての関心を広げ、資格取得につなげていくことができる。					
<input type="checkbox"/> 態度の観点	犬の種類や行動に応じて、正しく犬を扱うことができる。					
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	様々な種類の犬の扱い・トレーニング技法を習得する。					
授業計画(全体)						
授業は座学と実技を並行して行う						
授業計画(授業単位)						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	犬の性質について(1)	気質と性質の違いと理解・群れ				
第2回	犬の性質について(2)	攻撃性と臆病さ・犬の姿勢				
第3回	犬の性質について(3)	威嚇と攻撃の原因				
第4回	犬の性質について(4)	犬種による傾向				
第5回	犬具の使い方や役割を説明する	リードや首輪など必要な道具の役割について説明できる				
第6回	トイレトレーニングとハウストレーニング	各トレーニングのプランニング				
第7回	甘噛みの対処法	甘噛みの対処法を説明する				
第8回	散歩	散歩の役割と注意点を知る				
第9回	トレーニングを説明する(1)	犬の大きさを考えたアイコンタクトとアテンション、ルアー				
第10回	トレーニングを説明する(2)	ルアーからターゲット、クリックを使う				
第11回	犬の言葉を理解する(1)	コミュニケーション、カーミングシグナル				
第12回	犬の言葉を理解する(2)	凝視、動作や身振り、接触によるボディランゲージ				
第13回	犬のストレスについて	ストレスサイン・原因				
第14回	犬のストレスの対応と対策	ストレスの起こる環境やストレスの時の対応と対策				
第15回	トレーニングを説明する(3)	犬の大きさを考えたオスワリとフセの教え方				
第16回	適正飼養(1)	準備・犬種・オスカメスカ・購入先の検討				
第17回	適正飼養(2)	2頭目と多頭飼育、適正飼養に必要なもの				
第18回	適正飼養(3)	適正飼養の基本・災害に備える				
第19回	適正飼養(4)	身近に潜む危険を知る				
第20回	問題行動の対処(1)	吠える、トイレの失敗、飛びつき				
第21回	問題行動の対処(2)	拾い食い、食糞、雷や花火が苦手な犬				
第22回	問題行動の対処(3)	体を触っても嫌がらないようにする工夫、物や場所を守るなど咬むこと				
第23回	飼い主への対応について	言葉遣いや態度				
第24回	飼い主に対する指導について	オスワリとフセのマテ、オイデ、ヒールポジション、脚步歩行				
第25回	認定テスト練習					
第26回	認定テスト練習					
第27回	認定テスト練習					
第28回	認定テスト練習					
第29回	認定テスト練習					確認テスト
第30回	教えたコマンドを使ってゲームを考える	飼い主のレベルにあったレッスンができる				
成績評価方法						
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上						
成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他
定期試験	◎	○				50
小テスト	○	○	◎			10
宿題授業外レポート			○	◎		30
授業態度			○	◎		
発表・作品						
演習						
出席			○			10
担当教員	菊川 智子			実務経験紹介		

科目名	アニマルセラピー I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)(アドバイザー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物介在活動(アニマルセラピー)の理解と実践							
授業の一般目標	動物介在福祉士初級試験対策							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	セラピーの基本的な概念について理解できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	動物介在活動の在り方について理解できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	福祉についての関心を広げ、動物介在活動の実践につなげていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	セラピーの活動に積極的に関わることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	高齢者とのコミュニケーション能力を習得し、場面に応じた犬の扱いを実践することができる。							
授業計画(全体)								
アニマルセラピーの歴史、効果、作用、セラピーの活動について、活動を行うための準備と実践								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	アニマルセラピーAATの概要	歴史、セラピーに使う動物について						
第2回	AAA・ハンドリングの基礎1	AAAとは何か、AAAの定義、AAAの特徴と目標						
第3回	AAA・ハンドリングの基礎2	活動場所と活動内容						
第4回	AAA・ハンドリングの基礎3	施設における活動の効果						
第5回	AAA・ハンドリングの基礎4	高齢者にとっての効果						
第6回	AAA活動に向けて・コミュニケーション1	AAA活動に参加するボランティアの適性						
第7回	AAA活動に向けて・コミュニケーション2	AAAに参加する動物の適性						
第8回	AAA活動計画	活動計画の注意点・活動計画を立てる						
第9回	AAA直前の注意点・ボディチェックの方法	前日までしておく準備、当日にするチェック、ボディチェック						
第10回	AAAの活動マニュアルについて	活動前のチェックと注意事項						
第11回	AAT活動時に用意するもの	自分で用意するもの、チームで用意するもの						
第12回	AAA活動の流れ・活動中・活動後の注意	流れと進行や活動後のこと						
第13回	動物介在福祉士初級試験練習							
第14回	動物介在福祉士初級試験練習					確認テスト		
第15回	動物介在福祉士初級試験練習							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品								不可 (E):59点以下
演習								
出席			○				10	
担当教員	菊川 智子			実務経験紹介				

科目名	アニマルセラピーⅡ		単位数	2	科目コード	
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期
区分	選択必修(トレーナー分野)(アドバイザー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	—
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物介在活動の動物の管理と対象者へのコミュニケーション能力をつける					
授業の一般目標						
受講条件	特になし					
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布					
授業の到達目標						
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	高齢者福祉についての基本的な知識を身につけ理解できる。					
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	動物介在活動の在り方について理解し、場面に応じた活動ができる。					
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	福祉についての関心を広げ、動物介在活動の実践につなげていくことができる。					
<input type="checkbox"/> 態度の観点	セラピーの活動に積極的に関わることができる。					
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	対象者との接し方を習得し、場面に応じた犬の扱いを実践することができる。					
授業計画(全体)						
犬のコントロールが自然体で行えていること、活動内容にバリエーションをつける						
授業計画(授業単位)						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	犬の行動を読み解く・犬の動きを観察する	犬の基本的な行動を知る				
第2回	犬の行動学・基礎トレーニング復習	馴化と鋭敏化。古典的条件付け、オペラント条件付け				
第3回	学習理論・基礎トレーニング復習	正の強化・負の強化・正の弱化(罰)・負の弱化(罰)、嫌悪刺激について				
第4回	犬の言葉・ボディランゲージ	犬の動きを見てボディランゲージを読み取る				
第5回	行動の読み解き方と解決法(1)	吠える、咬む、留守番				
第6回	行動の読み解き方と解決法(2)	引っ張る・排泄				
第7回	感染症	感染症のことを知る				
第8回	アニマルセラピーの歴史とHAB・芸を教える	歴史・人と動物の相互作用を伝える組織、活動に使える一発芸をトレーニングしていく				
第9回	ホースセラピーなど・芸を教える	ホースセラピーなどについて、活動に使える一発芸をトレーニングしていく				
第10回	AAA効果・芸を教える	AAAの効果、活動に使える一発芸をトレーニングしていく				
第11回	施設で動物を飼うこと・芸を教える	施設で動物を飼うプラス効果と問題点、活動に使える一発芸をトレーニングしていく				
第12回	活動に参加する適正(人と動物)	活動を潤滑に行うために必要な適正				
第13回	活動に参加する小動物について	ハムスター、うさぎ、取りについて				
第14回	活動に参加する動物と活動内容を考える	犬以外の動物で活動する内容を考えてみる				確認テスト
第15回	活動計画・マニュアルを作る	計画を立てる				
第16回	活動の流れ	流れを考える				
第17回	活動中・活動後の注意について	注意すること				
第18回	活動の魅力と弱点	良いこと悪いことを知る				
第19回	動物の福祉と権利	動物に対する見方を考える				
第20回	活動に向く動物の適正診断	キャンベルテスト				
第21回	適正をもつ犬の繁殖	繁殖を知る				
第22回	カラーブリーディング、遺伝病について	遺伝を考える				
第23回	避妊・去勢について	避妊と去勢について				
第24回	AAT・AAEについて	AATとAAEの区別				
第25回	AAAを企画してみる	企画力をつける				
第26回	AAEを企画してみる	企画力をつける				
第27回	動物介在福祉士中級試験練習	試験練習				
第28回	動物介在福祉士中級試験練習	試験練習				
第29回	動物介在福祉士中級試験練習	試験練習				確認テスト
第30回	教えた芸を披露する	トレーに具した経過を説明して一発芸を披露する				
成績評価方法						
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上						
成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他
定期試験	◎	○				
小テスト	○	○	◎			
宿題授業外レポート						
授業態度			○	◎		
発表・作品						
演習						
出席			○			
担当教員	菊川 智子			実務経験紹介		
				評価割合	成績評価基準	
				50	秀 (S):100点~90点	
				10	優 (A):89点~80点	
					良 (B):79点~70点	
				30	可 (D):69点~60点	
					不可 (E):59点以下	
				10		

科目名	グルーミングⅡ		単位数	3	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)(アドバイザー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生で学んだ技術を後退させない。 時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。 JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。							
授業の一般目標	指定時間(1時間～1時間30分)内に、モデル犬1頭を一人で仕上げられるようになる。 必要に応じて、1日1人2頭のベーシックモデル犬を仕上げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、プロが教えるベスト・トリミング(トリマーの基礎知識)、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単な基本トリミング(整毛・カット)方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要な基本的な手入れ方法(無駄毛処理含む)の必要性について、顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・簡単なトリミング方法を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的な技術を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術へ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的なグルーミング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるように、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。 トレーナー&アドバイザーコースに関しては、AAV・サロントリマー3級資格を取得。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 実技 短毛種(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 チワワ(スムース・ヘアード) 学生1名で1頭仕上げ(10頭)						
第2回	実技 中毛種(1)	チワワ(ロング・ヘアード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)						
第3回	実技 その他の短毛種(1)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(12頭)						
第4回	実技 短毛種(2)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(12頭)						
第5回	実技 中毛種(2)	チワワ(ロング・ヘアード)、ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭)						
第6回	実技 その他の中毛種(1)	ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭)						
第7回	実技 その他の中毛種(1) 大型犬	フラット・コーテッド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭)						
第8回	実技 短毛種(3)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭)						
第9回	実技 中毛種(3)	チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(18頭)						
第10回	実技 その他の短毛種(2)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(18頭)						
第11回	実技 短毛種(4)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(18頭)						
第12回	実技 中毛種(4)	チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(18頭)						
第13回	実技 その他の中毛種(2)	ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第14回	実技 その他の中毛種(2) 大型犬	フラット・コーテッド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)				確認テスト		
第15回	実技 短毛種(5)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)				確認テスト		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	グルーミングⅢ		単位数	6	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(トレーナー分野)(アドバイザー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生で学んだ技術を後退させない。 時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。 JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。							
授業の一般目標	指定時間(1時間～1時間30分)内に、モデル犬1頭を一人で仕上げられるようになる。 必要に応じて、1日1人2頭のベーシックモデル犬を仕上げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、プロが教えるベスト・トリミング(トリマーの基礎知識)、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単な基本トリミング(整毛・カット)方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要な基本の手入れ方法(無駄毛処理含む)の必要性について、顧客等の説明時に活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・簡単なトリミング方法を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的な技術を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的なグルーミング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるように、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。 トレーナー&アドバイザーコースに関しては、AAV・サロントリマー3級資格を取得。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 実技 短毛種(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第2回	実技 中毛種(1)	チワワ(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第3回	実技 その他の短毛種(1)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第4回	実技 短毛種(2)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第5回	実技 中毛種(2)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第6回	実技 その他の中毛種(1)	ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第7回	実技 その他の中毛種(1) 大型犬	フラット・コートド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第8回	実技 短毛種(3)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第9回	実技 中毛種(3)	チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第10回	実技 その他の短毛種(2)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第11回	実技 短毛種(4)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第12回	実技 中毛種(4)	チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第13回	実技 その他の中毛種(2)	ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第14回	実技 その他の中毛種(2) 大型犬	フラット・コートド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第15回	実技 短毛種(5)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第16回	実技 中毛種(5)	チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第17回	実技 その他の短毛種(3)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第18回	実技 短毛種(6)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第19回	実技 中毛種(6)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第20回	実技 その他の中毛種(3)	ボラニアン(耳先、足回り、第1関節の裏側、尾の付け根、尻部、アンダーライン) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第21回	実技 短毛種(7)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第22回	実技 中毛種(7)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第23回	実技 その他の中毛種(3) 大型犬	フラット・コートド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第24回	実技 短毛種(8)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第25回	実技 中毛種(8)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第26回	実技 短毛種(9)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第27回	実技 短毛種(10)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)				トレーナーコース アドバイザーコース AAV(全勤専) サロントリマー3級資格試験		
第28回	実技 中毛種(9)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)						
第29回	実技 中毛種(10)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)				実技確認テスト		
第30回	実技 中毛種(11)	チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭)				実技確認テスト		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	ペットアロマ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習/講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペットのセルフケアおよびセラピーが実践できることを目指した授業							
授業の一般目標	アニマルケア・アロマの種類や方法、意義を理解した上で、アロマクラフトを実践できる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	配布資料							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	アニマルマッサージ・アロマの目的や効果を理解した上でアロマクラフトを実践できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アニマルケアに必要な座学知識の修得および動物を用いた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	人と動物の関係および行動学	アニマルケアを始めるにあたっての基礎知識						
第2回		行動学他						
第3回	犬の解剖学および生理学	骨格、筋肉						
第4回		筋肉の停止部と起始部						
第5回	アロマについて	アロマの種類(ラベンダー・ミント・ローズマリーなど)						
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回	実践クラフト	ペットケアに関するアロマクラフト						
第12回								
第13回	リラクゼーションマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類・実践						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	ペット経営学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ドッグ(ペット)サロン、生体販売店、ペット介護施設、しつけ教室等の店舗運営に直結する内容を覚え、将来店舗運営時に活用。 最新ペット業界の動きを常にチェックする。							
授業の一般目標	ペット業界をビジネスの観点から分析できる力を身につける。 就職した時、または将来ドッグ(ペット)サロン、生体販売店、ペット介護施設、しつけ教室等を自分で経営、就職先店で店長就任の際に役立つ知識とビジネス感覚を身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット業界における経営に関する概要の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペット業界の経営のノウハウについて、自分の意見を展開することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペット業界の関心を広げ、経営に関するアイデア・改善・問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ペット業界の経営について、リサーチ力をつける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的なペット業界の経営に関する知識を修得し、就職先または将来開業した場合に役立てることを覚える。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業について 起業、独立開業に必要なマインド(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 フレームワークの復習 ①						
第2回	起業、独立開業に必要なマインド(2)	フレームワークの復習 ②						
第3回	事業計画書とは(1) (骨組を考える)	企業概要、経営理念、事業の目的、						
第4回	事業計画書とは(2) (骨組を考える)	将来ビジョン						
第5回	事業計画書の作成方法(1) 事業内容を明確にする	市場環境と商品、サービスの特徴						
第6回	事業計画書の作成方法(2) 事業内容を明確にする	販売、提供価格の設定						
第7回	事業計画書の作成方法(3) 事業内容を明確にする	マーケティング戦略・仕入れ方法						
第8回	事業計画書の作成方法(4) 事業内容を明確にする	事業上の問題点、リスクの検討						
第9回	事業計画書の作成方法(5) 事業内容を明確にする	競合他店分析						
第10回	事業計画書の作成方法(6) 事業内容を明確にする	組織、スタッフ計画						
第11回	事業計画書の作成方法(7) 事業内容を明確にする	事業スケジュール						
第12回	事業計画書の作成方法(8) お金の裏付け	事業、商品別売り上げ利益計画						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	金森 孝子			実務経験紹介				

科目名	フードアドバイザー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	フードアドバイザーとしての最低限必要な知識である栄養学、ペットフード、サプリメント類についてを覚える。							
授業の一般目標	フードアドバイザーとして、飼い主さん等の相談に適切に対応することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	フードアドバイザー							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	フードアドバイザーとは何かについて説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	フードアドバイザーとして顧客に的確なアドバイスができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットの給餌内容について、栄養学の観点から関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	フードアドバイザーとして、ペットの健康面を考慮した目線で栄養面を考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
フードアドバイザーとして基本的な知識を修得し、顧客が飼養しているペットに最適な食事内容の提供ができる。 問題点があれば、改善策を考えることができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について ペットフードアドバイザーとは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ペットフードアドバイザーとは						
第2回	栄養学 1	栄養と栄養素						
第3回	栄養学 2	からだのしくみ						
第4回	栄養学 3	炭水化物・脂質・タンパク質						
第5回	栄養学 4	ビタミン、ミネラル他						
第6回	栄養学 5	エネルギーと養分要求量						
第7回	栄養学 6	ライフステージと栄養について						
第8回	栄養学 7	主な犬種・猫種の食事について						
第9回	ペットフードについて 1	ペットフードの成り立ち他						
第10回	ペットフードについて 2	ペットフードの製造・加工法、表示等						
第11回	サプリメントと手作り食	サプリメントと手作り食について						
第12回	対面アドバイス	お客様への対応とフード販売に関するQ&A						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り・受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	光野 京子			実務経験紹介				

科目名	愛玩動物飼養管理学特論			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択(ペット総合分野)			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物飼養管理士試験【1級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士1級の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	愛玩動物飼養管理士1級に合格する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	愛玩動物飼養管理士【1級】教本 第1・2巻							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の愛護及び管理に関する法律や動物の行動社会・動物の疾病について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 愛玩動物飼養管理士として、顧客に対して求められている問題点等のアドバイス・説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 基本的知識を身につけ、より専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 動物の愛護及び管理に関する法律で対象となる動物についての正しい飼養環境作り、適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
専門的な知識を身に付け、動物社会や遺伝・疾病を理解し、上級である愛玩動物飼養管理士1級合格を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	授業開始について 愛玩動物飼養管理学特論 (1)			授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 人と動物の関係学Ⅱ				
第2回	愛玩動物飼養管理学特論 (2)			動物関係法令Ⅱ ①				
第3回	愛玩動物飼養管理学特論 (3)			動物関係法令Ⅱ ②				
第4回	愛玩動物飼養管理学特論 (4)			動物の行動と社会				
第5回	愛玩動物飼養管理学特論 (5)			犬と猫の栄養学				
第6回	愛玩動物飼養管理学特論 (6)			動物の遺伝と繁殖生理				
第7回	愛玩動物飼養管理学特論 (7)			動物の疾病とその予防 ①				
第8回	愛玩動物飼養管理学特論 (8)			動物の疾病とその予防 ②				
第9回	愛玩動物飼養管理学特論 (9)			動物の疾病とその予防 ③				
第10回	愛玩動物飼養管理学特論 (10)			動物の飼養管理と公衆衛生				
第11回	愛玩動物飼養管理学特論 (11)			自然と人間				
第12回	振返り授業			確認テスト				
第13回	模擬試験 (1)			愛玩動物飼養管理士1級 模擬試験			模擬試験	
第14回	模擬試験 (2)			愛玩動物飼養管理士1級 模擬試験			模擬試験	
第15回	期末試験 試験問題の解答、解説			期末試験 試験問題の答え合わせと解説			単位認定試験 試験解説	
成績評価方法								
各項目では、理解カテストを行う。 単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 理解カテスト点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	損害保険学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	アニコム損害保険に合格する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット保険の内容や説明の仕方を理解する							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	損害保険募集人資格取得を目指し、専門知識を述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	将来働く際の役立つ資格として、より専門分野へ繋げることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
ペット保険の基礎的な内容と知識を学び、損害保険募集人資格試験の合格を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	ペット保険講座	ペット保険」を扱うペットショップで働く際、あるいはペット保険加入者が多数来院する動物病院で働く際に役立つ「ペット保険(アニコム損保等)」の知識全般について学習する						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	損害保険募集人 一般試験対策講座	損害保険会社のペット保険を扱うペットショップ、動物病院等への就職に有利な資格で、「損害保険募集人試験」の合格を目指す						
第6回								
第7回								
第8回								
成績評価方法								
各項目では、理解力テストを行う。 単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 理解力テスト点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○	◎			20	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	アニマルヘルパー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテル等どの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。							
授業の一般目標	アニマルヘルパーが行うペット訪問サポートについて実践的に身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	アニマル・ヘルパーとは、どのような役割を行うかを理解し、説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	業務内容や注意事項、動物の対応を述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	アニマルヘルパー資格取得後、より専門分野へ繋げることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	動物介護の知識を身につけ、正しく動物を取り扱うことができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アニマルヘルパーの基礎を学び、実践的に身につけ将来のペット業界に役立てる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	導入・インフォメーション	講座の目標、講座終了までの流れ、配布資料の確認						
第2回	犬の行動 ①	犬の発達過程、犬種特性、ボディランゲージ						
第3回	猫の行動 ①	猫の発達過程、ボディランゲージ、排泄や爪とぎなど猫特有の行動						
第4回	ヘルパー業務 (犬 ①)	犬のお世話をする際の注意事項や散歩や食事など依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第5回	ヘルパー業務 (犬 ②)							
第6回	ヘルパー業務 (猫 ①)	猫のお世話をする際の注意事項やトイレ掃除や遊びなど依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第7回	ヘルパー業務 (猫 ②)							
第8回	エキゾチックアニマル	一般的な小動物の具体的なお世話や注意事項						
第9回	要介護動物のケア ①	食事介護や排泄介護、運動介護など、特別に看護が必要な動物の対応						
第10回	要介護動物のケア ②							
第11回	訪問時の心肺蘇生術	訪問サービス時の心肺蘇生法のタイミングや具体的な方法						
第12回	修了試験	確認テスト						
成績評価方法								
単位認定 修了試験で総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○	◎			20	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	実務研修Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付ける。</p> <p>(1) 就職を考えさせ早期就職内定へ繋げる。</p> <p>(2) ペット業界での自分の適性や仕事の内容について自己分析する。</p> <p>(3) ペット業界への関心・就職への意欲を高め、日々の学校生活に対する意欲を高める。</p>							
授業の一般目標	<p>1. ペットショップ・動物病院の実践的経験を積む</p> <p>2. 職業意識を持つ</p> <p>3. いろいろな人の持つ考え方や行動に触れることにより、学生としてではなく、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができ、実践的な経験により、自主的に行動ができる人材になる。</p>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット業界の現場仕事内容や社会人マナーや関係を理解する							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	自身の卒業後の社会においての必要な能力を述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペット業界の関心を深め、就職への意欲を高める							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
インターンシップを通じ、ペット業界への関心や意欲を高め就職へ繋げる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 8月(1年)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サロン訪問						
第2回	9月上旬(1年)	インターンシップについての目的について確認						
第3回	10月上旬(1年)	ペットショップ・動物病院研究インターシップ先希望先を提出						
第4回	10月中旬(2年)	インターシップ先の誓約書記入・事前連絡・インターシップ受け入れについて のお願い・依頼の電話連絡を入れる						
第5回 ～ 8回	10月中旬(3年)	学生インターンシップ・ペットショップ・動物病院訪問・実務記録を提出する						
第9回	3月(2年)	ペットショップ・動物病院訪問						
第10回	4月上旬(2年)	ペットショップ・動物病院研究インターシップ先の希望調査書を提出、インター シップ先誓約書に記入・事前連絡を入れる						
第11回	5月上旬(2年)	インターンシップについての目的確認・インターシップ受け入れについてのお願 いをする。						
第12回～15回	5月中旬(2年)	インターンシップ先のペットショップ・動物病院等訪問実務記録を提出する						
成績評価方法								
単位認定 60点以上 就業報告書・実務記録・課題等の提出								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			30	良(B):79点～70点
授業態度			◎	◎			30	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習	○		◎	◎			20	
出席			◎				20	
担当教員	2年生担任			実務経験紹介				

科目名	卒業研究		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができる。 プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を覚え、プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に話し方などの口頭表現・身体表現ができる。							
授業の一般目標	1. 論理的に物事を考えられる。 2. 限られた時間の中で、自分の考えが効果的に述べられる。 3. 聞き手に感動を与えるような話し方ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	プレゼンテーションの基礎を学び意義や目的を理解する							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	限られた時間の中で、課題に合った自分の考えを述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	聴衆者が理解しやすく、また自分自身が分野の関心を広げ、プレゼン内容の改善・工夫ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	聴衆に好感が持たれる演出や話し方ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
プレゼンテーションの基礎を学び、同時に口頭表現、身体表現ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について プレゼンテーションとは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 プレゼンテーションの種類と定義を覚える						
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	コミュニケーションとプレゼンテーションの違いについて答えられる						
第3回	プレゼンテーションの目的	紹介のプレゼンテーションができる						
第4回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や目的の明確化ができる						
第5回	プレゼンテーション準備と流れ2	プラン作成やツールについてを覚える						
第6回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本ができる						
第7回	バーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法ができる						
第8回	ノンバーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法ができる						
第9回	身近なプレゼンテーション	スピーチ・フリートークができる						
第10回	パブリックスピーキング1	インタビューをする						
第11回	パブリックスピーキング2	会議と司会をする						
第12回	パブリックスピーキング3	学校生活について話してみる						
第13回	説明と説得のプレゼンテーション	グループワーク						
第14回	発表に向けてのリハーサル	発表に向けて、一通り行う						
第15回	プレゼンテーション発表と振り返り	グループ発表						
成績評価方法								
出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品			◎	○	◎		50	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	2年生担任			実務経験紹介				

科目名	ビジネス文章力		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美しい字を書く。ビジネス文書に関わる知識・技術を実際に活用できる。手紙・はがきを書くルールやマナーを活用する。社会人として必要なビジネス文書のマナーとルールを活用して社会生活を送る。							
授業の一般目標	日常的に美しい字を書けるようになる。 ビジネスで必要とされる漢字が書ける。 ビジネス検定2級合格。 社会に通用する手紙・はがきが書けるようになり、実際に送る							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビジネス文書検定受験ガイド1・2級							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ビジネス文書の基本を学び、必要な文書作成の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 正しい用字、用語やルール、マナーを述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. ビジネス文章検定に合格し、必要な文書作成を行うことができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
社会人として必要なビジネス文章のマナーとルールを学び、ビジネス検定2級合格を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について ビジネス文書の必要性を知る	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ビジネス文書の必要性を知り、人に伝える事ができる ビジネス文書検定の詳細を知り受験までの計画を立てる						
第2回	ビジネス文書が作成できる(1)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く ビジネス文書の書式を知り活用できる						
第3回	ビジネス文書が作成できる(2)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く ビジネス文書の書式を知り活用できる						
第4回	ビジネス文書が作成できる(3)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く ビジネス文書の書式を知り活用できる						
第5回	ビジネス文書が作成できる(4)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 正確で分かりやすい文章が書ける						
第6回	ビジネス文書が作成できる(5)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 正確で分かりやすい文章が書ける						
第7回	ビジネス文書が作成できる(6)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 正確で分かりやすい文章が書ける						
第8回	ビジネス文書が作成できる(7)	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 社内文書や社外文書が書けるようになる・取り扱いのルールを覚える						
第9回	模擬テスト	ビジネス文書検定模擬テスト実施 ・ 解答・解説をしてテスト前の総復習						
第10回	郵便物のルール 電子媒体のビジネス文書	郵便物のルールを知り活用する 電子媒体のビジネス文書のルールとマナーを活用する						
第11回	暑中見舞いを作成する	学習した知識を活用して暑中見舞いを実際に作成して郵送する						
第12回	お礼状を作成する(1)	学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る①						
第13回	お礼状を作成する(2)	学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る②				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
検定合格≦50%≫、制作物の完成度≦40%≫、出席≦10%≫、出席回数12回以上(4回目欠席より不可)、・原則として補講は実施しない、・遅刻3回で1回の欠席とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	論理的思考力		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力をつけ、数学的な考察を行える。小学校の算数程度の力だけで楽しみながらできる。一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは論理的な表現力を指し、情報の収集・整理・統合・思考そして発信に至るまで論理的であることが要求されるため、今日、社会人として求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。							
授業の一般目標	社会に適応しその要求する能力を身につける。学校で受けたすべての知識を忘れ去った後でも、なおかつ一生涯に役に立つような、論理的思考力・表現力をつける。『数学』と『読解力・表現力』は教育の指標としては同じカテゴリーに分類される。つまり、『数学』はまさに『ことばの力』を習得する学問であるとの認識を前提に、自然や日常にひそむ様々な問題を、算数・数学がこの世界・社会で果たしている役割を見つけ、理解する能力を身につける。さらに、現実に社会生活を送る市民として、そのさまざまな状況での必要性に合致した方法で数学を活用し、数学とよい関係を結んでいくことのできる能力をつける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 論理的な思考力についての必要性と内容説明ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 社会に求められるコミュニケーション能力や理解する能力を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 日常生活の中で論理的な思考力について、主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
社会に適応するのに必要な(社会が要求する)能力を身につけ、数学を通じ読解力と表現力を身に付ける								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について インド式計算法	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 2桁の掛け算・割り算・足し算・引き算も驚くほど簡単に計算ができるようになる インド式数学による計算法ができる						
第2回	天文学的数値の計算	ミクロの世界からマクロの世界まで幅広いレンジの指数計算 銀行預金やローンの金利から音楽の世界、さらには自然界の現象まで						
第3回	地頭力 ひとふでがき	「答えのない問題を解いていく力」、すなわち地頭力を鍛える5つの方法を覚える 一見複雑な問題を、本質的に必要な部分を抽象化し、解析することにより結論を導き出せる						
第4回	トイレットペーパーの長さを 測るには？	問題を解くためにはいろいろな方法があります 見方を変えれば、複雑な問題も簡単に解くことができる						
第5回	頭の中から自由に動かせる キーパーソンを探せ	問題を解くとき、考える対象が大きくても頭の中で自由に動かせる 発言の矛盾を見つけ出すには、数学的な論理力が必要である。推理の進め方について覚える						
第6回	鏡の不思議	鏡は左右は入れかえるのに上下は何故変わらないのか。自然界の右と左と鏡の中の世界の話聞く						
第7回	偶然を科学する	世の中には偶然と思われる現象がたくさんある、しかし、偶然と思われる現象にも原因があることを覚える						
第8回	でたらめを科学する	0から10までの数字をでたらめに並べたものを乱数という 乱数を作る方法から、乱数の応用までを活用できる						
第9回	幸せな結婚	あなたはこれからお見合いをします 目の前に現れる花嫁さん候補はN人 できれば、一番素晴らしい女性を選びたいところですが…						
第10回	暗号の秘密	インターネットを経由して情報のやり取りを行う場合、悪意のある第三者に情報を盗み見される危険性を防止するには？						
第11回	素数の秘密	素数とは5や7のように他の数で割り切ることができない数 その素数には何か隠された魅力があるようです そのなぞが解ける						
第12回	モンティホール問題	直感的な答えと、きちんと確率論に則って導き出された答えが異なるテレビ番組から生まれた史上最も議論を呼んだ確率問題が解ける						
第13回	パラドックスを楽しむ	妥当に見える推論のどこに間違いがあるかをクイズとして楽しみ、数学的推論に対する教訓を得る				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 参加型の授業で単位を認定する。期末試験は行わない。80%以上の出席が前提。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員					実務経験紹介			

科目名	ビジネス英語		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペットショップ(サロン)等での対応について、様々な場面での英会話を覚え、授業は簡単な会話を中心としペット分野に必要な表現・用語を併せて覚える。外国人を迎えた時だけでなく、多方面で国際的なコミュニケーションが必要になっているため、トリマーやトレーナー、アドバイザー等の活躍する場所も今後海外のペットショップで働いたり、留学したりと多くのステージが考えられる。グローバル時代に羽ばたくために、国際語としての英語を自分のものにする。							
授業の一般目標	単語や文法を覚えるだけでなく、英語でコミュニケーションできるようになる。中学1、2年で学ぶ内容をカバーしながら、英語で基本的なやりとりができる力を身につける。 ペットショップに外国人を迎えた時、最低限の意思疎通を図ることができるようになる。さらに海外旅行、留学、ホームステイなど、今後活躍するステージを広げていくために、会話の勉強を続けていくためのきっかけを見つける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし 資料は毎回配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ペット業界に関連するショップ(サロン)等での対応や簡単な英語会話の必要性が説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. グローバル化に備え、異国の方とのコミュニケーションを図り、必要な説明や応対ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 他国での留学・就職は繋げることが可能なことを想定し、考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
グローバル化を考慮し、英語でのコミュニケーション力をつける。 英会話を活用し、ペットショップ(サロン)で外国人を迎え対応できる力を身につける。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 自己紹介とあいさつ(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 あらたまった場面ではなく、親しみをこめてあいさつを交わし、会話のきっかけをつくっていく 名前や職業を言う、名前や出身地を尋ねるなどが行える						
第2回	あいさつ(2)	はじめて会った時、友人とのあいさつ、人や物を紹介できる 友人と別れる時の挨拶の仕方を覚える						
第3回	あいさつ(3)	人や物の状態・特徴をたずねることができる 元気?だいじょうぶ?などとたずねられる						
第4回	あいさつ(4)	道案内や行き方をたずねたり伝えたりする事ができる 品物や値段をたずねたり答えたりできる						
第5回	犬種について簡単に説明する(1)	犬種の性格や特徴を簡単に説明できる						
第6回	犬種について簡単に説明する(2)	犬種の毛色やサイズを説明できる						
第7回	電話予約を受ける	電話で、簡単な用件をたずねたり、伝えたりできる。曜日や日づけ、時間などをたずねたり、答えたりできる						
第8回	予約のお客様を迎える	あいさつ、予約のチェック、モデル犬情報が確認できる						
第9回	料金をいただく	お礼をしたり、苦情を言ったりすることができる						
第10回	カットスタイルの注文をうかがう(カット ティング1)	欲しいものややりたいことを言うことができる。アドバイスを求めたり、与えたりすることができる 提案したり、提案を求めたりすることができる						
第11回	カットスタイルの注文をうかがう(カット ティング2)							
第12回	運営シュミレーション	シュミレーションによる会話練習 用語・表現の総復習を行う						
第13回	試験範囲の復習	試験対策ポイント・復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り・受験				単位認定試験		
第15回	まとめ	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 全回出席が前提となる。各回小テスト15点×15、期末試験25点。3回以上の欠席は不可とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イベントプロデュース I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	イベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身につける事ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業ガイダンス	2020年度のイベントについて						
第2回	イベントとは?	イベントの意義について						
第3回	イベントの目的	イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える						
第4回	プランニングと運営について	プランニング(計画生)の重要性と運営について覚える						
第5回	イベント企画会議(1)	実際の行事の企画会議を実施する。(ほりかわ祭)						
第6回	イベント運営のグループワーク(1)	イベント運営とグループワーク(ほりかわ祭)						
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション(1)	運営シミュレーション(ほりかわ祭)						
第8回	イベント運営の実際(1)	ほりかわ祭について(1)						
第9回	イベントプロデュースの分析と展望(1)	ほりかわ祭について(2)						
第10回	イベント企画会議(2)	実際の行事の企画会議を実施する。(就職egg)						
第11回	イベント運営のグループワーク(2)	イベント運営とグループワーク(就職egg)						
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション(2)	運営シミュレーション(就職egg)を行う						
第13回	イベント運営の実際(2)	就職eggについて(1)						
第14回	イベントプロデュースの分析と展望(2)	就職eggについて						
第15回	まとめ	まとめ						
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度	○		○	◎			30	可(D):69点~60点
発表・作品	○	◎	○		◎		40	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎	◎			30	
担当教員	井田 亜由美、奥田 愛絵、小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	イベントプロデュースⅡ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	イベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身につける事ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業ガイダンス	2019年度のイベントについて						
第2回	イベントとは?	イベントの意義について						
第3回	イベントの目的	イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える。						
第4回	プランニングと運営について	プランニング(計画生)の重要性と運営について覚える						
第5回	イベント企画会議(1)	実際の行事の企画会議を実施する。(ほりかわ祭)						
第6回	イベント運営のグループワーク(1)	イベント運営とグループワーク(ほりかわ祭)						
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション(1)	運営シミュレーション(ほりかわ祭)						
第8回	イベント運営の実際(1)	ほりかわ祭について(1)						
第9回	イベントプロデュースの分析と展望(1)	ほりかわ祭について(2)						
第10回	イベント企画会議(2)	実際の行事の企画会議を実施する。(就職egg)						
第11回	イベント運営のグループワーク(2)	イベント運営とグループワーク(就職egg)						
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション(2)	運営シミュレーション(就職egg)を行う						
第13回	イベント運営の実際(2)	就職eggについて(1)						
第14回	イベントプロデュースの分析と展望(2)	就職eggについて						
第15回	まとめ	まとめ						
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度	○		○	◎			30	可(D):69点~60点
発表・作品	○	◎	○		◎		40	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎	◎			30	
担当教員	松山 きらら			実務経験紹介				

科目名	企業研究		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職を希望するペットショップ・動物病院等の調査法、インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提とした目的・心構え・ビジネスマナー等を中心に、事前準備を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書が作成できる。(交通費等の費用は原則自己負担) 自分自身の視点から調査・分析出来る能力を身につけ、就職につなげる。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識の育成を計るとともに、自ら職業選択の明確な基準軸を見つける。							
授業の一般目標	現場などで働きながら実務についての知識や経験を積む実務を行う。報酬はなく、学内の勉強だけでは得られない体験ができ、現場での就業・実務体験を通して、働くことの意義・働くための資質等を理解し、将来の進路選択に資する経験・見識をつかむことができる。また、責任感・時間厳守・守秘義務など社会でのルールとして守るべき事項が認識できる。 ① 自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を持つ。 ② 実社会に触れることによって、学習意欲をつける。 ③ 人間性(思いやり・公共心・倫理観)を高め、基本的な生活習慣を身に付ける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	インターンシップに繋げる企業に対する研究の意義や心構えを理解し、活用方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	自己分析をし、将来設計の実現に向けた企業の研究をし、インターンシップへ繋げる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	インターンシップを通じて、就職活動へ連携することができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	インターンシップを振り返り、報告書の作成を行うことで対象企業を就活継続できるかどうか判断ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
インターンシップ先決定において、興味のある企業についての研究をし、向けての心構えを学び、就職活動意欲を高めることができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	業界研究	就職を希望するペットショップ・動物病院に関して、仕事の内容、仕事の条件、その業界内における当該企業の位置づけと将来性はどのようになっているのか等、自分自身の視点から調査・分析						
第2回	実務研修の依頼	就職を希望するペットショップ・動物病院の調査法。インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、企業等とのマッチング、日程調整						
第3回	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。						
第4回	実務研修	受入れ事業所で就業体験(実習日誌)						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。						
第15回								
成績評価方法								
事前研修及び研修状況(50%)、研修後のレポート及び報告会(50%)で評価する。レポートでは、インターンシップを通じてその業界で活躍するために身につけなければならないことについて報告させる。定期試験は無し								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良(B):79点~70点
授業態度	◎		○	◎			30	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習				◎			20	
出席				◎			30	
担当教員				実務経験紹介				